

---

# 異世界探検記！？

鉄くず

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異世界探検記!?

### 【Nコード】

N9367F

### 【作者名】

鉄くず

### 【あらすじ】

毎日毎日、同じことの繰り返し……。それに飽きた少年は、いつもと違う「なにか」を待っていた。その「なにか」は突然やってくる……。なんの前触れもなく……。それは本当に突然に……。諸事情により、そばらくの間、北海道に行かなければならず、最低でも2週間（〜1年）更新作業等が出来なくなります。すみませんが、宜しく願います。

## はじめに・・・（前書き）

小説は勢いで始めてます。

読みづらかったらすみません。

2 / 1 6 1話からずっと酷いです。

5話から少しましになったかなあ〜ぐらいです。

修正したいんですがなかなか時間が・・・ああ・・・。

2 / 2 2 こんな酷いでは終わらない小説（？）ですが、  
暖かい目で なかったことにして下さい（笑）。

せいめい・・・

毎日毎日・・・

同じことの繰り返しで・・・

本当につまらない・・・

いつもと違う「なにか」が起きてほしい・・・

このつまらない日常に終止符を打ってほしい・・・

そう思っても・・・

「なにか」は起きない・・・

つまらない・・・つまらない・・・

はやく起きてくれよ・・・

俺のこの暇をつぶす「なにか」・・・

・・・どうせ起きないだろうけど・・・

でも・・・少しの可能性に賭けてみる・・・

信じていたら・・・

きっと「なにか」は起きるから・・・

俺のこの暇に・・・

終わりを告げる「なにか」が起きるから・・・

きゅとん・・・きゅとん・・・きゅとん・・・

## はじめに・・・(後書き)

シリアスみたいですがコメディです。

週一で更新できれば良い方だとおもいます。

いろいろごめんなさい・・・。

1話目：ただでは終わらない(前書き)

5話ぐらいから少しまし(鉄くず的に)になったかなあ・・・。

2話をてきとーに読んだら5話に飛んで下さい。

2・3・4は修正予定です。

(そのほかも修正予定ですが)

1話目：修正完了。

また修正はしようと思いましたが、それはまた

次回に・・・。

1話目…ただでは終わらない

「朝……か……」

また いつもどおり が始まったのか

……考えるのはよそう

俺はコメディアンなんだ、おもしろく……おもしろく……

ザ・スーパーコメディアン!!!!!!!!!!!!!!

「……ごめん……。」

謝ってみる。これから起こることも全て含めて謝る。

「いま……何時だ……?」

時計をしてみる

「……9時? わあお」

まあ・・・なんとゆうか・・・

遅刻だよね〜（笑）

笑い事じゃないよね〜（笑）

「はっはっはっ・・・・・・・・・・」

とりあえず笑っておこう・・・

大丈夫さ、なんとかなるさ

そんな感じの歌があったような気がするし・・・うん。あったよね。

無くて俺は悪くない。悪く ないと思います。

・・・さっき謝ったからね。知らないよ。・・・ごめん。

〜そして学校へ・・・〜（現在 午前10時）

「ガラッッッッッッッッッッッッッ!?!?!」

（音は決して長くな

いぜー！)

「おはよーございまーす。」

堂々と教室に入場。

誰にも突っ込ませんぞおおお！！！！

「さっさと席座れ〜」

「イエッサー！！！！」

・・・うん。

先生はやさしいなあ〜  
ハゲ

まあ、「ハゲ」なんだけどねえ〜〜〜。

ハゲじゃなかったらホテルと思うんだけどなあ〜。

まあ、嘘なんだけどねえ〜。 ホテルわけないわ〜 ハゲだし〜。

「「ハゲ」は余計だ。(4回)」

あつ、声にでてたみたいだ・・・

でもそんなの関係ねえ!!!!

とか言ってますが 関係ねえ ってなにが？

なにが関係ねえんだよバカヤロウめえい！

ああ・・・うん・・・いやあ・・・その・・・ね！その・・・ね  
!!!!

今はなかったことにしてくれよなっ!!!!

そして時間は過ぎて・・・いたりいかなかったり・・・。

そりゃ〜時間ぐらい過ぎるよ。 当たり前だろ〜。・・・うん、ごめん。

謝ってばっかでごめん。・・・。(無言で土下座。)

（昼休憩）

「昼になるまでなにがあったか？それはご想像におまかせします」

まあな、授業しかないだろうお〜が〜よ〜。

え〜と、弁当弁当……………。

「ガサゴソガサゴソ……………」

（バッグの上部を捜索中……………）

あれっ？……………。

「ガサゴソガサゴソガサガサゴソゴソ……………」

（バックを隅々まで捜索中……………）

弁当どこ入れたっけなあ……………。

「ドンガラガツシャンピーヒャララ〜」

（音で表せないので……はい……。）

音は気にしたら負けだ、OK？。 NOとは言わせないがな。

……とゆるわけで……弁当忘れちゃった      テヘツ。

い……ごめんなさい……。      世界中全ての人に……ごめんなさい……。

ごめんね      ごめんねええええええええええ〜！！！！

……  
……。

許して……！      お願い……！      殺さないで……！

まあいいや……とりあえず時間ができたんで、自己紹介をしようと思いまーす。

さっきの独り言はなしだからね。 男と男の約束だ！ 女性の方も  
・・・約束だ！！！

(どこにでもありそうな 高校) 3年2組

山田 太郎！！！！

ウソです。 すんません。

春野 ハルノ 健司 ケンジ

おもしろくなくてごめん・・・。

とりあえず謝っとく、 なんか ものすごい名前を想像させてごめ  
ん。

髪は・・・平均より長いはず (平均がどれくらいか知らんが・・・  
)

肩に掛かるぐらい。 寝癖は直さない主義なんです。

髪の色は黒 普通に黒 特に変哲もない黒 茶色は少しもないと信じてる。

身長は・・・測ってないから WaKaRaN<sup>わ・か・ら・ん</sup>

きつと高い方・・・のはず。

この自己紹介を見ている諸君よりも、高いと思ってくれ。 そうだと信じてる。

頭はたぶん・・・良いほうだ・・・と思うよ。

学校で一番だし。 (この学校の生徒が 異常なほどバカなだけです。きつと。)

俺の特技は 「ケンジって不器用に見えるけど以外と器用だね」  
だ!!!!

これぐらいか・・・

あとは作者に聞いてくれ。 俺なりに義務は果たした。

・・・諸君。一応ゆつとくが、俺にも友達ぐらいいるぞ。

今日はたまたま一人なだけだ・・・うん。

友達100人できるかな？ できるぞ！！！

現在いないけど！！！！ 50年後にはね・・・100なんて軽く越してやるぜ・・・。

「・・・なんか虚<sup>むな</sup>しいなああああああああ！！！！！！」

いきなりごめん！！！！

なんか「落ちた」！！！！

よくわからないと思うが・・・とりあえず「落ちた」！！！！

どーゆー意味かって？

口では説明しづらいけど……………

落とし穴がある！　　と思って、　　落とし穴を避けて歩いたら……………

実はそれも計算に入ってて、　　本命の落とし穴に落とされた。　　みたいなの？

今も落ちてるよ。　　うん。　　っつか浮いてる。

……………落とし穴！？

落とし穴にしては深すぎない？

……………あ、なんで学校に落とし穴があるんだよ！　　って突っ込んでほしかったのか。

はっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっ。　　俺に突っ込みを期待しちゃうダメだよ。



ごめん・すみませんの回数 10回前後

土下座の回数 1回

後悔した回数 星と同じ数

## 1 話目・ただでは終わらない（後書き）

こんな小説を読んで下さり、本当にありがとうございます。  
感想など、お待ちしております。

**2話目：シルクハットは詳細不明（前書き）**

一通り修正しました。

次の修正はまた今度で！！！！

## 2話目：シルクハットは詳細不明

「うおおおおおおおおおオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
おおおおおおおおおオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
まだ落ちてます。落とし穴つてもっと浅くてもいいと思うんだけ  
どなあ~~~~」。

.....長い!長すぎる!!!

「いい加減「話」を進めろおおおおおおおおおおおおおお  
おおネジ野郎おおおおお!!!」

本当にはやくしてくれ・・・  
滞空時間が長すぎて・・・  
吐きそう・・・だ・・・いや、マジで。本当に吐くよ。うん。  
「冗談抜きで。」

「.....光.....? 出口「メキメキメキメキ  
メキメキメキメキ!!!」.....?」

.....今.....なにが起きたん.....だ.....?  
.....よく.....聞いてくれ.....

1、落とし穴（？）に落ちました

2、周りが明るくなりました

3、「・・・軽く死ねる音」

（結論）

落ちてる最中に、なぜか逆さまになり・・・（いつのまにか

うん。俺も気づかない速さで。）

首の骨が「メキメキメキメキメキメキメキメキメキメキ!!!」

・・・OK?

・・・これでいいよね・・・

「さっきの音」の本人が言ってるんだから・・・

【ココロの声って便利だね!】

「今のはダメだね・・・俺じゃなかったら死んでるよ・・・」  
とりあえず俺を「落とした」奴に言っとく、ホントにダメ!

（まあ落としたのは俺だけだな・・・。）

「・・・あれで生きてる俺はすごいな!」

だれも褒めてくれないから自分で自分を褒める。

悪いことじゃないさ。褒めてくれてもいいだろう。 諸君。

「とじろで・・・・・・・・・・」

平原？原っぱ？（どっちでもいいか）

みたいなところに俺は降って来たようだ・・・

でも俺が落ちてきた痕跡が残ってない・・・なんで???

「・・・・・・・・・・」

「・・・・・・・・・・???

誰かこっち見てる・・・

シルクハットに紫スーツの男だ・・・・・・・・。うん。

普通に考えて怪しいよね。シルクハットはまあ許すけどさあ。。。

紫のスーツ・・・わかりづらい？

サーカスとかに出てきそうな・・・スーツ・・・。

は許せないね。俺は紫嫌いだから。うん。それだけ。

「あなたは・・・異国の人間ですか？」

「えっ！？・・・まあ・・・はい・・・（喋った!）」

いきなり喋るな！ビックリしたぜオイ!!!

つい はい って言っちゃたじゃねえかよぉ・・・。

「最近妙に多いですね・・・異国の人間・・・」

「（独り言か？）あぁ・・・考え込んでるとこそすまん。あんたは誰なんだ？」

きっと読者も気になってるはずだ・・・俺だけか？ 違うよね。

「あつ、すみません。私は「エドワード」と申します。」

申しますはどーでもいーや・・・うん。 たまに言うし・・・。

エドワードか・・・作者はネタがあまりないみたいだな・・・

コメディなんだからもおもしろい名前にしないと・・・

まあ……そこも気にしたら負けだよな〜

「俺は健司<sup>ケンジ</sup>、日本<sup>ジャパン</sup>から来たんだぜ！」

なんかかつこよく言ってみる 俺

……ジャパンってどこだよ。 はっはっはっ。

「おもしろい方<sup>かた</sup>ですね。」

褒められたぜ うれしいぜ ってどこらへんがおもしろかったんだ？

お前はこどもかつ!!! ってゆう突っ込みはなしだぜ

褒められてない!!! って突っ込みもなしだぜ、うん。

「そついえば……なあエドワード……」

「なんですか？」

「こいつて……どこ? (俺はフランスと見た!)」

「この国ですか？この平原ですか？それともこの異世界とかゆう世界の名前ですか？」

「この国ですよ」「コロコロの声にだれか突っ込んでくれよな……」

「リテリア」とゆう国です。

異国の方がつくった国でもあります。」

「リテリアかあ……聞いたことないなあ……」（いろいろスル  
ーした）

「異国≡異世界ですから……知らないのは当たり前だと……思  
いますか……。」

そうか……落とし穴の先がフランスなわけないか

異国≡異世界かよ 異国≡外国だろ

異世界か……いや……すごいな……

でも……その異世界に「落とし穴？」で来た俺って……

運がいいのか悪いのか……。

人それぞれとはこのことだな。

「こんなことがよくあるのか？ エドワードさん……。」

丁寧に聞く俺。

めっさ丁寧にすよね。 うん。 俺だけ？ そう思っつ俺だけ？

「月に5回ぐらいですね」

即答するエドワード。

よくあるよくある〜 レベルってことか……。

「俺はなにをしたらいいんでしょうか？」

やることないし……なんかやらないといけないことあったら困る  
し……。

住民登録？とか なんでやねえ〜ん……。

「そうですね……生きてください。」

はあ？・・・意味 WaKaRaN!!! ぜオイ コンチクシヨ  
ウ。

「どーゆー意味ですかねえ？ くわしく説明しやがれ」（敬語は疲  
れるなあゝ。うん。）

「とりあえずなにをしてもいいですが・・・死なないで下さ  
い。」

・・・俺を心配してるのか？

心配してるならこの世界のことをもっと説明してほしいんだが・・・

「死体の処理がめんどくさいので「お前なんか死んでしまえ」

ああゝ・・・俺が馬鹿だったなあゝ・・・

「この世界に法律ってある？」

「決まりごとですか？とくにありませんよ」

こいつを殺つても捕まらないよねゝ。

どつ殺そつかなあ~~~~。軽く100は思い浮かぶわあ~~~~

「……………あなたと同じことを考える人が多いんですよ……………」

「ココロを読まれた!!!」「いままでのココロの声の突っ込めよ!!!」

「ですから……………死なないで下さいね……………」

「うっそピョーン。」

……………めん……………。

「あ、言い忘れてましたが……………魔物にも気をつけて下さい。エサにはなりたくないでしょう……………」

俺はたぶん逆だな……………安心した。(魔物は俺のエサ)

自然の掟は厳しいねえ……………。

「では……………お互い生きていたらまた会いましょう……………」

エドワードはそついい残し どこかへ消えていった。

「いろいろ謎の多い奴だな…………… いろんな意味で……………」

ところで……………俺はなにをしたらいいんだ？

それを教えるやコンチクショーめい……………

2話目：シルクハットは詳細不明（後書き）

長くなってすみません

次からもう少し短くまとめます

3 話目・ケンジ 精神の限界（前書き）

返事がない ただの屍のような作者です

### 3話目：ケンジ 精神の限界

「あのシルクハット死ねばいいのに・・・」 (っで始まります)  
みなさんお久しぶり、ケンジです。(カタカナってかっこいいよね！)

シルクハットは・・・「あいつ」です。(愛すべき変質者)

<sup>ジャパン</sup>日本はまだ寒いと思うが・・・  
こっちはそうでもないぞ (たぶんな)  
すこし肌寒いな、くらいだ (たぶんだからな)  
こっちは今・・・昼過ぎを過ぎたぐらいの時間だ、ジャパンとあんま変わらないと思う

「・・・実はさっきまで寝てたんだよな」 (まだHe・I・G<sup>ヘイ</sup>  
<sup>ゲ・N</sup>e・Nから動いてないぜ)  
とりあえず歩きまゝすよ～～～ (テンション高いっていいよね)

テクテクテクテクテクテクテクテクテクテクテクテク・・・

テクテクテクテクテクテクテクテクテクテクテクテク・・・

テクテクテクテクテクテクテクテクテクテクテクテク・・・

ヘイ・ゲン  
He・I・Ge・N 広い!!! 広すぎる!!!

とにかく広いぜコンチクショウメ!!!!!!

周りに見えるのは森なのか? いや、森かどうかは問題じゃねえ!

問題なのはこの平原(英語めんどい・・・)から出られないってことだ!!!!!!

ダッシュ&ダッシュ&ダッシュ&ダッシュ&ダッシュ&ダッシュ

ダッシュ&ダッシュ&ダッシュ&ダッシュ

ダッシュ&ダッシュ

「出れねえや〜ど〜しよ〜」(ダッシュって打つのまじめんどくせえ)

俺はおもしろい「なにか」を期待してたのにな

これじゃ〜おもしろい「なにか」が起こらな〜いじゃ〜ないか

(さっさと話を進めろよ(これが本音

「・・・ノリと根性で出られないかな」

10分後くらい

「脱出成功！」<sup>チート</sup>

ノリと根性 最高!!!!!!

俺ってノリと根性があれば生きていける気がするぜい

作者が、もう寝ていい? って顔してるけど気にしないぜ 同情する  
価値なしだぜ

「てゆゝか時計がほしくなゝ 時間がさっぱりわからんぜよゝ」  
俺に固定されたキャラはない!

しかも朝&昼ランチ食べてないんだよなあゝ 腹減ったゝ (本当  
は朝ランチ食べたけどな!)

腹が減りすぎて 腹時計が狂つとるわい ホッホッホッホッホ (俺  
に固定されたキャラはない!2)

「たしかリテリアだっけ?ここ」

いまさらだけど読者は俺がどこにいるかわかるか?

平原でて、森でたらなんとそこは・・・

さばく でしたわゝ

ほんとにビックリしたよゝ

リテリアってさばくだったんだねゝゝ (違っだらうけどな)

「どーでもいーけどね 別に(テンション下がった)

俺には悪運パワーが常人の3倍あるはずなのに・・・ (悪運パワ

ーは主にヤンキーがもってます)

なんで街にでないんだ!なんでさばくなんだ!なんでなんだあああ

あああああああああああああああああああああああああ！！！！

俺は信じてない！俺は絶対に信じてない！！俺は信じてないからなああ

あああああ！！！！！」

ひぐ○しの○く頃に の L5発症

作者メッセージ

ケンジはつまらないことが続きすぎて ついに！ L5発症！！！！

おめでと~~~~~~~~いえええええええええええええええええい

・・・皆様、しばらくインフルエンザにより更新できず  
申し訳ありませんでした。

これからはできるだけ真面目に（できるだけ・・・）

更新していきますので、この小説をこれからもよろしくお願ひします。

鉄くず

3話目：ケンジ 精神の限界（後書き）

いろいろ大変でした。

またこれからもよろしくお願いします。

4 話 目 ・ ・ ・ と ば く ・ 最 後 に 楽 園 ( 前 書 き )

( ) は 作 者 で す 。  
は い 、 作 者 で す 。

#### 4話目：さばく・最後に楽園

「なかなか話が進まな〜いな〜」（L5終了）

ああ・・・実はさつきさばくを歩いてる商人？らしき者を脅したら  
マネーとトケーをくれたぜ  
俺ってすごいよな（いろんな意味で）

「現在・午後7時24分」（らしいよ）  
もう夜だな〜・・・なんか食いてえな〜  
さばくなのにサボテン1つねえよ〜 ひくわ〜（なぜに！）  
あの商人をもつと脅しとけばよかったな〜

「だが俺には最終兵器があるのだよ！！！！」

（ケンジは制服ズボンの右ポケットをあさった！）

「いくぜっっっ！！！！俺の最終兵器！！！！」

（ケンジは最終兵器を取り出した！！！！）

「どっ〇もド）せせ〜〜〜ん！！！！！！！！」

（今のはあれだよ・・・あれ・・・うん・・・あれ）

「だめか〜〜ざんねんだな〜」（チートですから〜）



「うううううらあああああああはああああああ  
あああああ」

(思いつきり全力疾走!!!)

「そいやあああせりやあああああどりやあああほいさ  
あああああ」

(ケンジの限界突破!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!)

「ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
」

(なぜか爆発!!!!!!)

「限界突破すぎたか・・・不覚・・・」

(無傷だが 自爆したことにちょっとショックを受けてるケンジ  
・・・ってだからなんで爆発した!?)

「オ ア シ ス にとーちやーく!!!!!!」

(ショックはすぐに収まったようだ)

「さばくの夜って寒いんだぜ、知ってた?」(寒いどころじゃない  
よ)

作者は少しダメレ! OK?(断る!)

じゃあコローース!!!!!! (やめろああああああ)

「グワシヤアアアアアアアアアアアアアアアア!!!!!!!!!!!!」

「・・・いろいろすまない」

とりあえず今日は オ ア シ ス で寝るぜ コンチクシヨウメイ  
また次の話で会おう!!!!!!

サ~~~~ラ~~~~バ~~~~じゃ~~~~

作者のいろいろ

みなさん 最近寒いですね。

本当に 風邪 が流行ってます。

インフルエンザも流行ってます。(作者は3回かかりました)

みなさんも 手洗い うがい を忘れないようにして下さいね(母親のよゝに)

最近のインフルエンザは治りにくい!(個人的にですが)

なのでインフルエンザにはかからないように!(個人的な意見)

ではみなさん、さよ~~~~なら~~~~

4話目…さばく・最後に楽園(後書き)

いやゝ みなさんも

風邪 インフルエンザ にはお気をつけ下さい。

5話目：必殺技ぐらい・・・（前書き）

更新遅れました

作者の肺炎が発覚しました（笑）

笑い事じゃないんですがとりあえず笑います。

## 5話目…必殺技ぐらい…

「俺の必殺技考えよぐぜ」

(……………はあ?)

「聞こえなかったのか?コンチクショウメイ」

(いきなり意味わからんこと言い出したよ オイコラ フザケンナ

あ、すみません。今は オアシス です。さっきケンジが目覚めました

目覚めて 第一声が 「俺の必殺技考えよぐぜ」 でした。

意味わからん。 で、終われないのでしばらく付き合っことにします。 )

「おゝい 聞こえてるか? 聞こえてたら右手と左手を・・・切り落とせ!!--!」

(聞こえてるわ!!--!なんで両手切るんだよ!!--!)

「98%のノリと1%のノリ」

(99%ノリって言えよ!!!あと残りの1%なんだよ!!!)

「ノリだよバカヤロー!!!そのぐらい予想できるだろ!!!」

(知らねーよ!!!100%ノリなら最初からノリって言えよ!!!)

「……メンドクセエ奴だなあ……」

(俺のセリフだよ……「ノヤロウ……」)

【しばらくして……】

「……っとゆーことで、俺の必殺技ってどんながいいと思う?」

(どーでもいいんじゃない?ってかいらなくね?)

「やっぱカメ〇メ波だろー 一度は撃つてみたい」

(無視かいつ! しかもパクリじゃねーか!)

「そこは気にしちゃダメでしょ……」

(気にするわ! パクリはいろいろ問題になるからダメ!!!しかも俺がOKしたら必殺技使えんのかよ!!!)

「じゃあ……エスパーでOK?仕方なくエスパーにしてやったん

「だぜ。」

（必殺技じゃねーじゃん。もう超能力じゃん。しかも仕方なくってなんだよ。）

「テレキネシスでいいじゃん。物を宙に浮かしたりさ。浮かした物をドーンっと投げたりさ。」

（も、もうそれでいいんじゃない？） ストレスで体力が・・・

【ケンジは テレキネシス を覚えた？】（なぜ疑問系！！！）

「じゃあさっそく・・・・・・おりゃあああああああああ！！」  
「近くのサボテンに」

・・・・・・無理です。（何も起こらなかった。）

「ははははは・・・・・・なめるなああああああ！！」  
近くにいたサソリに

無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄あ  
ああああ！！！！（作者の「コロコロの声」）

「つ……つかえない……だと……?」

(本当に必要な時にしかつかえない……的なの?) マンガみたいに

「キ、キサマアアアアア。謀<sup>はか</sup>ったなああああ!!!!!」 (なにが!?)

(いやいやいや……そんなこと知らねーよ……) 死にそう  
な作者 HP1

「くそお……しかたない……か……。」

(どーでもいいーけど さばくからはやくどっか行け。物語が進ま  
んからな。) 一時的に復活 HP10

「作者如きが……ふざけやがって……。」

……こうしていても、話が進まない。  
とりあえず オア シ ス とはお別れだな……

……って俺 寝ただけじゃねーか オア シ ス でやった  
こと

しかもこの話に至るまでりんご1個しか食ってねーよ なんかす  
ごいなあ 俺。

人間の限界を超えたんだな はっはっはっは

「……そろそろ行きますかーねー」

歩くぜ〜走るぜ〜飛ぶぜ〜弾けるぜ〜  
（後半は 人間に  
はできません）

「う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜」  
（全力疾走中）

（時速120キロ 人間じゃないスピードなのは間違いない。）

「ラ〜ラ〜ラ〜ラララ ラ〜ラ〜ラ〜 ラ〜ラ〜ラ〜ラララ ラ〜  
ラ〜ラ〜」

（歌ってるのか？歌っているのか？どーでもいいけどね。）

「つ〜か〜れ〜た〜ん〜だ〜け〜ど〜」

（なんか言ってるけど なに言ってるかわからないな〜）

「とりあえず到着でいいや〜」 現在地 さばくの真ん中

（……………） 作者は死んでます。

「突っ込めよ〜ってことで再開！」 （返事がない ただの屍のメ  
ンドクセエからもういや〜）

青い空 白い雲 そして見渡す限り全部 砂  
おもしろい物 が一つもねえ。 物語が進まねえ……のは作者の陰





5話目…必殺技ぐらい…(後書き)

ケンジは危険思考少年ですが

これからの物語に支障はありません・・・多分・・・

作者は寝る前に制作したのでいろいろやばいです

あと、これから絵文字は極力なしでいきます。

6 話目・脇役だって主役になりたい（前書き）

はい 最近 作者のテンションが異状です



「あ、すみません。……大丈夫ですか？」（どうした？が多いぞ？）

「貴様ああああやるじゃないかああああ　ハハハハ！！！貴様あ！俺と戦え！！！」

（いきなり何言ってるの！！　意味わからん　では終われないから続けるけどな）

「え……あ……いいですよ。」

（いいのかよ！！！なんでもアリだな！オイ！）

【もういちど　さばく　にきました】　（一般人が犠牲にならないよじこ）

「地獄で後悔するがいいいいいいいいいい脇役がああああああああああ  
あああ！！！！！！！」

（卑怯なことに　開始の合図　の前に攻撃）

「……………うるせえええええええええ！！！！」

(まさかの反撃でケンジもビックリ！)

「ベキイイイイイイイイイイイイ！！！」(殴った音ではないと思うぞ) ケンジに120ポイントのダメージ

「へぶしっつっつ！！！」(顔面にヒット って今のは死ぬだろ！)

「……………うらああああああああ！！！！！！脇役風情があああああ！！！」(まだやんのかよ！？大丈夫か？)

「……………主人公だからって調子に乗ってんじゃねええええ」(脇役の恨み)

「グシャアアアアアアアアア！！！」(なんの音だよ！！！) ケンジに1300ポイントのダメージ

「……………」返事がない、ただの屍のようだ

「やりすぎちゃったよ…… はっはっはっ」(最強の脇役降臨？)

「二度と街に来るな」と言い残し 脇役は街に帰って行った……

わ、脇役……お、恐るべし……。

この 最強パワー状態 の俺を倒すとは……。

ただの脇役ではなかったよう……だ……。

（ ゲーム オーバー ）

コンティニュー？ はい／いいえ （

「さっきのは夢だ 夢なんだ 俺が負けるなどありえない！」

（ ケンジの危険思考状態が解除された ）  
フルパワー

「……いや……やっぱり調子に乗っちゃダメだね…… 脇役  
のことも考えずに暴走しすぎたよ……。」

でも反省はしない俺 俺はやっぱり調子に乗ってないかね

調子に乗ってるからこそ 俺なんだよね

まあさっきの脇役は 殺<sup>や</sup>るとして……

これから街に戻ります。 脇役なんか俺に命令してんじゃねーよ

・・・ではまた次回作でお会いしましょう

みなさん！ さよ～なら～

完

(いやいやいやいや！！勝手に終わらすなよ！！まだやるよ！  
！！続けるよ！！)

たとえ「やめろ」と言われてもやるよ！！

・・・いまのは嘘です。やめろって言われたら多分やめます 多分  
ですけど・・・

次回作の予定ないんで続けます。はい、なんかすみません)

「脇役なんかに負けてたまるかああああい！！！」

(今回はこれで句切ります 皆様！おやすみなさい！) 寝る前限定

「ええ！！！！ちよっ！！！！ええええええええええ！！！！」 たまに  
いじられるキャラ

6話目・脇役だったって主役になりたい（後書き）

まだ続きますよ!?!。  
終わりませんよ!?!。

7話目・そろそろ探検が始まる・・・はず(前書き)

今回はかなり酷いです(今までも酷かったが)  
また明日ぐらいに修正します。

7話目…そろそろ探検が始まる・・・はず

「なあなあ・・・で、どうすんだよ。」

（あきらめる・・・としか言いようがないのだが・・・。）

「バカヤロウ！俺はいつでもチャレンジャーなんだよ！」

（ああ・・・お前少しだまれ 読者に説明するから

はい、今回はですね・・・。

前回でてきた脇役君がどうしても倒せない・・・とゆう状況です。

街に戻りましたらね・・・また脇役君とぶつかって・・・

コンティニュー？ はい／いいえ・・・あとはそれを繰り返し繰り返し・・・

今はケンジ君と作戦会議中です。作者君はあきらめてます。（

「終わった？暇なんだけど・・・」マジでマジで

（街はあきらめる。どうせ 返事がないただの・・・めんどくせえ！になるんだから・・・。）

「だから俺はチャレンジャーなん（俺は眠いんだよ・・・）わかつたよ・・・。」

作者が死にそうだ・・・今回は作者のやりたいようにやらせよう・・・。

冥土の土産として・・・な・・・（笑）。

（今、ものすごく不吉なことを言われた気がする・・・。）

「言ってねえよ。ココロの声だからセーフだろ。」

（お前・・・あとで殺すからな・・・。 【作者権限で】）

「街はあきらめて洞窟探検にしよう!」

（せめて反応しろ！ しかも洞窟なんか・・・いや・・・あるよね。

）ケンジの能力を悟った作者

そう、それは一瞬の出来事だった・・・。

ケンジが 「街はあきらめて洞窟探検にしよう!」 と言った瞬間

暗黒街「レスト」から東に300メートルぐらいのとこに

（恐らくケンジのテレキネシスで）洞窟が現れた・・・。

「作者の気持ちを代弁してやったぜ。ありがたく思え。」

(俺はもう疲れたよ・・・最近寝不足でさぁ・・・。)

「じゃあこんな小説(とはお世辞でも言えないが)書かないで寝ろよ。」

(それを言われたら困るなぁ・・・ははははは。)

「まあ、レベル上げてくるわ!」ゲームかよ! って突っ込む気力もない作者

洞窟の前に来ました。ではでは、スライムでも倒してくるぜい。

【作者は留守番中】

(遅いな〜・・・どうせコンティニューだろうけどな〜。)

コンティニュー? はい/いいえ

( いいえ でよくな? )

「くそぉ・・・強い・・・。」

(なにと戦ったんだ？ 中ボスか？ ボスか？)

「ス(スライムはなしだからな!) . . . . .」

. . . . .

. . . . .  
「 . . . スポンジ。」

(そーかそーか スポンジと戦ったのかー。)

「俺の装備 制服 だけだしさ」 無理っしょ!」

(お前 . . . たしか黄金の右腕とか言ってなかったか?)

「昔の話だ、忘れたまえ . . . .」

やうよ?  
(主人公がスライムに負けてたらさあ . . . 物語がここで終わっちゃうよ?)

最初の平原にいた . . . 名前忘れたけど!あのシルクハットも言っ  
てたじゃん!

魔物には気をつける的なこと!お前、逆に食ってやる的なこと言っ  
てたよ!)

【ここから こどもの喧嘩モードに突入!!!】

「短くまとめるや！この……この作者め！！！」悪口が見つからなかった

（次は俺も行くからな！スライムには負けるなよ！絶対だからな！絶対に絶対だからな！）

「スライムは絶対にいやだ！スライムだけは無理！あのヌメヌメ感が……考えたくもないわ！」

（じゃあスライム以外倒せよ！スライムは俺が殺るから！スライム以外倒せよ！）

「スライム以外だな！わかった、スライム以外は俺が殺るから！絶対スライムは倒せよ！」

（約束だぞ！裏切ったらお前はいなかったことにするからな！）

「いいだろう！お前も裏切るなよ！裏切ったら今までよりも予想外のことするからな！」

（いくぞ！いつせーのーでいくからな！）

「（いつせーのーでっ……！）」

「（……お前行けよ！絶対俺だけ行かすつもりだっただろ！）」

【ごごももの喧嘩モード 終了】

「行きますか」 さっきはちょっと取り乱したけど、悪く思っ  
なよ  
「！」

(ごめんごめん さっきは俺が悪かったんだ)

作者と仲直りもしたし、そろそろ洞窟に行きます！

作者がショック死しないように注意しないとな(笑)

(今日はこれくらいにします。)

次の話はかなり真面目に行きます！

戦闘あり！ コンティニューあり！ なんでもあり！

いつもよりは長くなると思いますが！よろしくお願いします！(

「なあなあ さっきから誰に話してんの？」

(読者の皆様だよコノヤロー。)

「そうかよコンチクショウ。」

7話目・そろそろ探検が始まる・・・はず(後書き)

次はやっと 探検 します。

探検はおもしろい事が多いか少ないか

その日の気分で決めようと思います。(待てい)

8話目…やっと冒険の始まり(前書き)

昨日更新予定だったんですが  
忙しくて出来ませんでした。(言い訳です)

## 8話目：やつと冒険の始まり

リテリアの南にある暗黒街<sup>レスト</sup>

その暗黒街から 東に300メートル行った所に

明らかに誰かの思惑でできた 洞窟を発見した。

しかし、洞窟内には 数え切れないほどの魔物<sup>モンスター</sup>が生息しており

魔物と戦わずに奥まで行くのは不可能と思われる。

そこで私は、ある 病弱だけど特殊な能力を持つてる 男を味方に  
つけた

彼はスライムだけには勝てるかと豪語しているが、本当だろうか？

そんなこと興味ないが まあおまけとしてそれも調べよう。

では・・・生きて出られたらまた会おう。

H・K (春野 健司)

「製作者探検隊の遺書」(仮)

「時は満ちた さあ！ 我々の力で奴らに引導を渡してやるつもりはないか！」

(そう焦るな・・・ まずは装備を確認しようぞ・・・。)

ハルノ ケンジ HP60MP30

高校の制服(装備)

どこでもポケット(装備)

黄金の右腕(装備)

マッチ(無限)

リセット・ザ・リセット(必殺技)

サクシャ テックズ HP300MP無限

ジャージ(装備)

金属バット(装備できません)

怪しい花粉対策マスク(装備)

怪しいサングラス(装備)

怪しいフード(装備)

作者の力(戦闘中にアイテムとして使用できません。)

「お前は不審者の見本だな。ただの怪しいおっさんじゃねえか。」

(よく言われる言葉 ベスト3に入ってる。)

「どーでもいい。とりあえず金属バット寄せ。」

(俺は使えないしな、まあがんばってくれよ スライム以外。)

作者がそう言うとき ケンジは低く笑って言った。

「先に言っとくが・・・ お前が思い描いてるスライムとは少し違うと思うぞ。」

(な、なにい！それはどーゆうことだ！)

「レッツ ラ ゴー ……!!!!!!」

(ちよっ！置いてくな！ 一人でいるとホントに不審者に見えるから！)

「封印されし洞窟」

ケンジは どこでもポケット からランタンを取り出し、マッチで火をつけた。

「もう慣れたよ・・・ この作業・・・。」

(俺が寝てる間に 何回死んだんだ・・・?)

「300回超えた頃から数えてない……。」

(ごめん……嫌な事思い出させて……。)

「気にすんなよ！ 誰でも興味ぐらい持つさ！」

(お前 ココロの声が使えなくなってから…… ココロが広くなつたな！)

「元からだよバカヤロウ！」

そんなくだらない話をしながら 彼らは洞窟の奥に向かって歩き続けた。

奥に向かう間 奇跡的に魔物には出会わなかった。

「俺たちって悪運つよいな。」

ケンジは笑って作者を見た。

(奇跡的に魔物には出会わなかった……つと。)

「お前……なにしてんの？ オイ コノクソサクシャガ！」

(……え〜とな……戦闘シーンなんて誰も求めてねーんだよ！)

作者の力により、洞窟内の魔物が10000分の1に減った。

「……俺の今までの努力って一体なんだったんだよ……。」

作者は落ち込んでるケンジを置いて 先に進んだ。

(気にしたら負けなのだよ……私はそう習った。)

誰に習ったのか？ そんなこと聞かれても困る。(本音)

(アイツ遅いな。 まだ落ち込んでるのか？ ってなんだありゃ？)

【スライム ガ アラワレタ】

(……ウソーーーーー！！ 魔物は 作者の力で殲滅したはずだ！)

誰が仕組んだのか それは言うまでもない。 ケンジである。

(しかも…… スライムは水色だろ！あのかわいい奴だろ！  
ド○ゴ○クエストみたいな)

なんで緑なんだよ！なんで目も口もないんだよ！

俺の想像をことごとく打ち砕きやがって！ ユルサン！！  
！）

勝手に勘違いして 勝手に逆ギレ こんな奴だったか？最初とぜん  
ぜん違うぜオイ！

【スライム ノ コウゲキ】

「グワシャーーーーーーン！！！！！！」

どんな攻撃したんだよ！！！！ありえない音が多いぞ！コンチクシヨ  
ーめい

【サクシャ ニーノ ダメージ】

（スライム如きが・・・私に勝てると思ったかあああああ！！！！）

【サクシャ ノ コウゲキ】

作者は魔法を唱えた。

（ザ・ジャツジメーーーーーント！！！！）

スライムの上から鉄球が降ってきた。

「プチッ！」

【スライム ハ ッブレタ】ダメージじゃねえし！一撃かよ！

（私に勝てるでも思ったのか？ 私に勝てる者などこの世界に誰一人いないのだよ。）

作者は精神的に限界が来ました。 暖かく見守ってあげて下さい。

「作者……なかなかやるじゃないか……。」

ケンジ復活 元気120%だぜ。

（この俺を殺せると思うか？ 無駄無駄無駄ああ！！！！）

「なんかおかしくなったな。お前。」

その後も歩き続け……

ケンジ達は怪しい扉を見つけた。

(絶対なんかいるよな……。)

「俺でもわかるぞ？ この先にはなにかを守るガーディアンがいる。って怪しい扉に書いてある。」

「お久しぶりですね。 エドワードです。」

皆さんは私のことを覚えてますか？

忘れたなら…… 忘れたでいいんですが……。

とりあえず言っときますね。

この先には行かない方がいいと思います。 はい。

後悔することになりますよ。

絶対に行かないで下さい。

この先にいるガーディアンはオリハルコンより硬いので諦めて下さい。

では 失礼します。」

(……ケンジ君 どうする??)

「どうするか？ この先にいる奴をぶっ殺してお宝を回収するに決まってるんだろ。」

（そりゃそーだ。俺も協力してやるよ。とっておきの魔法でな・・・）

作者は不敵な笑みを浮かべた。

（今回はもう終わりにしよう。）

「え〜なんで〜 もうちょっといいじゃん。」

（肺炎の点滴タイムだぜ。）

「・・・どーでもよくな〜?」

（続きはもうちょっと待ってね!）

「聞いてねえ・・・。」

8話目・やっとな冒険の始まり(後書き)

そろそろ新キャラを出したいな・・・と思っています。

次ぐらいで出せるかなあ・・・。

期待する価値はありません(笑)

## 9 話目：無理矢理（前書き）

今回は前回より長いです。

ですから最初はとばしてもかまいません（笑）

あと新キャラです。

名前なしの新キャラです。

（おまけ参照）

## 9 話目：無理矢理

「怪しい扉を開きますか？」

（もちろんさあ！） ドールドみたいに。

二人は怪しい扉を開け放った！！！！

「……………失礼しました。」

なんかでかいのいました。

オリハルコン・ザ・ゴーレム と命名。

どのくらい大きいかと言うと……

腕が トラックを縦にして三台ぐらいの大きさ。

わかりましたか？

（帰ろうぜ 俺達はなにも見なかった。）

「ああ・・・俺達はなにも見なかった。」

二人が帰ろうとすると・・・。

「ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオン……！！！」

道を塞がれてしまいました。

作者が前回だした 鉄球に……。 (ザ・ジャツジメー……ン  
ト……！)

「お前か！ 絶対企んでたな！ 絶対仕組んだだろ！」

(誰がそんなのするかあああああああああああああああ！！  
！ 俺はまだ死にたくねえんだよ……！)

恐らく 偶然と奇跡の合わせ技。

「じゃあ行くぞ！ちゃんとセーブしろよ！ 探検記1と探検記2に  
しとけよ！」

探検記3はクリアデータだからな！上書きするなよ！」ゲームかよ！

「探検記3 ニ セーブ シマシタ。」

(うしっ！ 完璧！)

「……………」

ケンジは立ったまま失神しています。

(作者様が脇役に負けるワケがないだろう！)

作者は怪しい扉を開き オリハルコン・ザ・ゴーレム に突撃した！

「プチッ！」

音で察して下さい。

「作者あああああああ……！！……！！」

戦場に散っていく戦士を ケンジは この先一度も 忘れることは  
なかった……。

(待てええええええい!!! 勝手に殺すな!!!)

生きてました。 死ねばいいのに……。

(酷いな! 俺とお前は二人で一つなんだぞ!)

消えるよ……。 存在がゴミ。

「まさしく それ! 俺も思った!」

(お前ら…… そんなに俺が嫌いか……。)

「イエス!」 イエス!

(……………  
はぁ。)

「作戦会議をはじめます。」

(よろしくお願ひします。)

「作戦1 あの洞窟はなかったことにする。」

却下します。 次 作者

(作戦2 ガーディアンはいなかったことにする。)

お前ら死んでこい。 勝つための作戦を考えろ。

「作戦3 実はあのガーディアンが守ってるのはお姫様。」

……どーゆー意味？ 死んでこい。

(……鉄くずさ〜ん……)

どーした？ 殺してほしいのか？

(違うわ！ ケンジが言いたいのは……)

俺達の目的は 囚われた姫 を救出すること。

にして、 ケンジの ファンタジーな脳みそ を活性化させよう！

ってことじゃね？)

よくわからん。死ね。

(つまりは 姫を助ける騎士 になりたいってことじゃね?)

.....許可します。なんかおもしろそう。

(お前・・・気持ち悪いな.....)

「お前の顔面よりは・・・だいじょーぶ。」

お前らさっさと行け。

「じゃあ行くか?.....」

(やっと話が進むよ.....)

どうした? お前ら黙ってないで.....

さっき作者が開けた扉から.....

オリハルコン君がこっちみえます。

目があるのかどうかはわからないけどね!

「.....金属バットアタック!!!」

(とりあえず.....ジャッジメー.....ント!.....!)

「おい！ 俺も潰す気かあああ「プチッ！」」

(・・・俺はなにも悪くない。 悪くないんだああああ！！！！)

バカが・・・仲間割れかよ・・・。

(オリハルコン君 キサマアアアアアアア！！！！)

人？(人じゃないけど)のせいにした！

「リセット・ザ・リセット！！！！」

リセット・ザ・リセットとは

ケンジの必殺技

時間を最高10分間まで戻すことができる。

オリハルコン君がこっちみえます。

目があるのかどうかはわからないけど。

「・・・作者 頼んだ。」 人任せかい！

(とりあえず・・・ジャツジメー！ーント！！！)

「ごしゃああああああめんどくさああああああああああああああああ！！！！」

オリハルコン君の顔面崩壊！ オリハルコンじゃなかったみたいだ！！！！

シルクハットはあのときてきとーな文章で彼らをおびき寄せ

二人に地獄を見せてやろうと考えてました。

でもなんだかんだで勝っちゃったぜ。

「よつしゃああああ！！！！ 行くぜええええええ！！！！」

(お前が倒さないのかよ！！！！ 主人公が倒さないとダメだろ！！！！)

作者よ 俺達はおまけなのだ 彼が無事に物語を進めるようにする・

。。。 あきらめろ。

(。。。俺達は突っ込みが出てくるまでのおまけだからな。。。)

これでいいんだ。。。 寂しいけどな。。。

(そうか。。。俺は帰るよ。。。病院に。。。)

出口ないけど。。。帰れんのか？

(。。。。。。。。。忘れてた。)

ケンジはオリハルコン君の死体を乗り越え(生きてると思うが)

怪しい扉よりも 怪しい扉を見つけた。

「。。。ここかな？ どーでもいいけど。」

どーでもいいの!?!? (ケンジらしいなあ。)

「ここに来るまで 一度も使わなかった。。

金属バツト!!!!

」

「ベキィ    ボキィ    ドーン    ヘーイ    ガチャガチャ    カタカタ    ド  
スッ」

「開いた~~~~ 俺天才！」

バット何回使ったんだ？（7回に決まってんじゃん。）

扉の奥には……。眠りについた一人の女性がいた。

「起きろ〜 起きろ〜 起きろ〜 起きろ〜 起きろ〜」

頬をペチペチペチペチペチペチペチペチ。

これは最悪だな。（ケンジは空気を読んでいるんだよ。 ははっ。）

作者は 今までケンジと笑いあった日々を思い出しています。

「……………起きてるんだが。」

「あ、ごめん。」

謝った！あのケンジが！（ははははは……）

「貴様はなんだ 人間か？」

「人間か？・・・だと俺が人間に見えるのか？この話に至るまでりんご一個しか食べてない俺を！」

「聞いた私がバカだった。」

「そう お前がバカだった。」

あいつらはなにがしたいんだ？

(花畑が見えるよ) ははははは(

「貴様の名前はなんとゆうのだ？」

「俺か？俺はケンジ とみせかけて ケンジだ。」

「ケンジか・・・ (なぜ2回名乗った?)」

「お前の名前は？ 言わないとダウン。」「ダウン？」

「私は・・・。」

「なんですか？あと二秒。」

「・・・すまない。 思い出せない。」

「人に名前聞いといて自分は思い出せない？ はいダウン。」

「ぺちっ」「痛っ！いきなりなんだ！」

「はいドゥーン」「ペちっ」「はいドゥーン」「ペちっ」「はいドゥーン」「ペちっ」

「痛っ！ ちよっ！ やめ！ いいかげんに！ 怒るぞ！」

「飽きた。もういや。」

ケンジ酷いな！ (川が・・・向こうにおじいちゃんがいるよ・・・)

「遊びに飽きた所で そろそろ名前を考えますか。」

「なんの名前」「お前の！」

洞窟出よ〜ぜ (この空気はまずい。) はっはっはっはっはっ 空  
気よめよ鉄くず。( )

「・・・考えんのめんどくせ。 名前は次の話でいや。」

「てきとーな奴だな・・・。 私はどーでもいいが・・・。」

いいのーい！ (天国じゃ〜い)

今回はほんとに長い 作者死ねばいいのに。 っ て俺か。

今回は 新キャラ無理矢理だしてやったぜ。

名前は考えてないけどだしてやったぜ。

「そのせいで私は ペちペちペちペち……。」

次から作者が消えるかも！？ 鉄くずナレーションしか残らないかも。

鉄くずと作者 は二人で一つ。

俺がお前で お前が俺で 二人は合体 融合体。

はい、ごめんなさい。

9 話目：無理矢理（後書き）

新キャラの名前は考えてませんが  
その日の気分で決めます。

おまけ：キャラクター紹介など（前書き）

読まなくてもぜんぜん大丈夫です。

できたら読んでほしいなあ〜ぐらいなので。

## おまけ：キャラクター紹介など

皆さん 鉄くずです。

今回は 作者が死なずにここまでやれたよ 記念で

いつもの仲間達と、この小説について語ります。

語ってるかどうかは別問題です（笑）

とりあえずキャラクター紹介から。

春野 ハルノ 健司 ケンジ

人間ではありません。

それしか言えないです。

テレキネシスをつかえるようになったが

テレキネシスと言うよりは なにかを引き寄せる能力を持つ。

高校3年生 ノリと根性で生きてる。

必殺技はリセット・ザ・リセット

9話に説明があります。

自己紹介は1話にあります。

作者

不審者にしか見えない。

なぜか魔法が使える。

やっぱり不審者にしか見えない。

(みろ、鉄くずがゴミのようだ！)

鉄くず

この小説の作者。

作者とは同一人物だが Sなのはたしか。

自宅のパソコンからナレーションをやっている。

作者にはどうしても死んでほしい と思ってる。

(作者よ あまり私を怒らせるな・・・。)

シエル

9話に出てきた偉そうな人

名前は20秒で決定した。

髪がやたら長い。 さだ○さんのようだ。

髪の色は黒。瞳は青。顔は・・・男といえば男 女といえば女 姫  
様なんて女性です。

かわいいかどうかは不明 女性らしさがあるとは思えないが・・・。  
(ケンジより)

歳は・・・17ぐらいですかね。

エドワード

出番がないシルクハット。

11話に紹介文がさりげなく載ってる。

以上が脇役以外のキャラクター達です。

そろそろ語りますかね・・・。

?この小説はどうしてできたのか?

ケンジ「ノリと根性。」

シエル「同じく……。」

作者（またまた同じく。）

鉄くず「はい、ノリと根性です。」

？なぜ鉄くずは死なないのか？

ケンジ「不死身の魔物だから。」

シエル「小説に……関係があるのか……？」

作者（俺から生命エネルギーを吸い取ってるから。）

鉄くず「作者正解。だからお前はいつも死にそうなのだ。」

？なぜ話ぐらいから作者と鉄くずに別れたのか？

ケンジ「俺がしるか！」

シエル「意味が……わからない……。」

作者（俺の口から言うのか？）

鉄くず「感想のおかげです。最初の感想がなければ 作者 はいま  
せんでした。」

？なぜ鉄くずは入院しないのか？

ケンジ「バカだから。」

シエル「小説と・・・関係ある話を・・・。」

作者（俺から生命エネルギー・・・）

鉄くず「・・・病院が嫌いだからです。」

？作者、死んでください？

ケンジ「・・・・・・・・・・。」

シエル「なぜ・・・？がついてるんだ・・・。」

作者（鉄くずの陰謀か！）

鉄くず「残念 今回は俺じゃない。」

ケンジ「・・・・・・・・・・。」

作者「お前かあああああ!!!!」

ケンジ「ふははははははは!!!!」

・・・今回はこれでいいや。

ぜんぜん語ってないけどね!

まあたまにはこんな感じもいいですね。

キャラクターについての質問　お待ちしております。

できたら鉄くずについての質問なども・・・(笑)

こんどは第2弾を予定・・・してませんが

質問があれば前書きか後書きに書こうと思います。

これからもよろしくお願いします。

鉄くず・作者

**おまけ：キャラクター紹介など（後書き）**

読んでくれてありがとうございます。

質問などありましたら

答えられる範囲内で答えます！

10 話目：消えない作者 膨らむ思い？（前書き）

人間最高！

・・・ごめーんね。

・・・すみません・・・。

10 話目：消えない作者 膨らむ思い？

ケンジさんとシエルさん（おまけ参照）が

あの 空気の悪い洞窟 で楽しく？お話ししてる時……。

【作者視点になります。】

「俺の出番は終わったんだ……。

あとはあいつらを見守るだけ……。」

皆さん 作者です……。

今は鉄くずハウスにいます。

鉄くずが隣りでナレーションしています。

俺は第三者の視点で ケンジ達を見てます。

「チクショウ……。あの新入りのせいで……。

俺はケンジと一緒に旅がしたかったんだ!!!

俺とケンジの楽しかった時間！新入りのせいで失った時間！

あのヤロウ・・・絶対許さねえ・・・。」

俺のフルパワーで消滅させてやる・・・。

もう誰も 俺を止めることなどできねえぜ！！！！

「  
宇宙ソラからの贈り物

みんな消えてしまえばいいんだああああああああああああああああああああああ！！！！」

### 【ケンジの視点】

「やっぱり俺はトレハ・ローズにしたかった。」

「なぜ宇宙人が宣伝してるような名前にしたがる？（宇宙人ってなんなんだ？）」

「お前なあ 宇宙人をなめてたら痛い目みるぞ！」

「宇宙人は飴の一種なのか？（食べ物だったのか・・・。）」

「・・・そうだ 飴だ。（こいつ・・・作者よりおもしろいな・・・。）」

「……………」

「なんでこんな洞窟にいたんだ？（俺が鉄くずに頼んだからだと思  
うがな。）」

「わからない……。気がついたらここにいた。」

「またわからないか……。はいドゥーン。（わかんなくて  
当然だがな。）」

「「ぺちっ」「やめろ！」「ぺちっ」「ちょっ！」「ぺちっ」「おい！」

「癖になりそうだ。（こいつマジおもしろい。）」

「私もいいかげん怒るぞ！」「ぺちっ」……………」

「……………」

「そついえば……。作者はどこに消えたんだ？」

「作者？誰だそいつは？」

「人さらいをしてる悪い人。」

「人さらいか……。どんな奴か 想像はたやすいな……………」





いろいろ言いたいけど……とりあえず……。

「鉄くずハウスを直せ。5秒で。」

「無理です。俺はケンジと旅を続ける!!!!!!!」

「どーでもいいから。ケンジに会いたいなら5秒で直せ。」

「そいやああああああああああ!!!!!!!!!!!!!!!!」

「……やっちまったなあ。やればできるとは正にこのことだ。」

そいやあああああ で家が直った。明日から自慢できるな。

読者諸君。なんの自慢かは……想像でよろしく!

「とどけ!俺の思い!……と俺!!!!!」

「まあいいや……。いつてら。」

「ワープするぜえええええええ!!!!!!ホイサツツツツ!!!!!!」

「ホイサ?すごい魔法だな……。」

なんで隕石が直撃して死なない?

愛の力 とでも言うのか？……………気持ち悪っ！

30回ぐらい死んでこい！

【またまたケンジ視点】

「そういえば……………鉄くずは大事なことを忘れていた……………」

「大事なこと？私に関係があるのか？」

シエルの身長。わかんね。以上。

「てきとーすぎるだろ！少しは考えろ！」

「なぜココロの声がわかった！！。侮れん奴……………」

「お前の顔がすべてを物語っている。」

「ん、マジで？……………なんか悔しいなあ……………はいダウン。」

「見切った！」「ぺちっ……………うう……………」

俺の暇つぶしを見切られてたまるかよ！

・・・痛くない程度の方だと思ったんだが・・・。

「ケンジ・・・。ずいぶん楽しそうだな・・・。」

「作者か？作者の会話文は（）だろ？やり直し。」

（ケンジ・・・。ずいぶん楽しそうだな・・・。）

「お前がいないと俺の暴走を止める奴がいなくなるだろうが。バカヤロー。」

（え、もしかして頼りにされてる？ やべえ・・・鼻血が・・・。）

作者 ココロの声

な、なんだこいつは・・・。本当にあの作者か？

あの いつも死にそうなキャラ の作者なのか？

いつもより160%気持ち悪い・・・。

「さ・・・作者・・・？大丈夫か・・・？」

（やめろおおおお！やさしい言葉をかけるなああああ！）作者

ココロの声

「お前が作者・・・か。人さらいの見本だな・・・。」

(ああ！新入りが調子に乗るなよ……。お前などジャツジメントで……。)

「作者。シエルになんかしたら殺すから。」

(シエルになんかしたら殺す!!シエル>作者

………チクシヨオオオオオオオオ!!!(作者

ココロの声

シエルを弄<sup>いじ</sup>っているのは俺だけだ。

なぜなら！こいつは俺の暇つぶし道具であると同時に！

作者よりおもしろく！使用価値があるからだ！

「そ……そいつは大丈夫なのか？泣いているのか 笑っているのか  
かわからんぞ？」

「ココロで泣いてる。顔は笑ってる。」

「……そいつは本当に人間か？」

「違う。別名シャドーマン。鉄くずの影。」

「鉄くず？そいつも人さらいなのか？」

「……そのとおりだ。(こいつ……おもしろっ!)」

(新入りいいいいい……俺様がこれで終わると思うなよおおお  
お……。) (殺気がやべえ！)

「うっ……。な、なんだか寒気が……。」

あいつら仲いくな。

どうやったたらそんなすぐに打ち解けられるんだ？

「まあい〜や〜。そろそろどっか行こーぜー。」

「どっかとは……どこのことだ？」

(ケンジと一緒にならどこでもいいぜー！)

「……今……寒気が……。」

気のせいじゃないよな……。

まだ寒気が治まらん……。

「なぜ貴様が憑いてくる。」

(漢字もわからないのか？カリブ海に沈んでしまえ。)

「私を愚弄するか！人さらいの分際で！」

(おいおいおい・・・笑わせるなよ・・・)

俺は今すぐにも貴様をカリブ海に沈めてやりたい・・・。

だが！だがな！ケンジは貴様を殺すなど・・・うう・・・。(

「よ、よくわからんが！貴様は憑いてくるな！」

(決めるのはケンジだ！貴様ではない！)

「ケンジ！こいつも連れて行くのか！」

「い・・・いいんじゃないね・・・？」

寒気がマジやべえ・・・。

は・・・早く・・・日の当たる所へ・・・。

「な、なぜ人さらいなごと！」

(俺とケンジの仲だからな・・・。)

「この疫病神が！」

(・・・貴様に俺の気持ちがわかると言つのかあああああ！!!  
!!!!)

「うるせえ！ちつちつと1111から出るぞ！」

「は、はいい・・・。」(わ、わかった・・・。)

読者の皆さん。

別に怒ってるわけじゃないよ。

寒気がちよつとね・・・。うん。

怒ってないから。気分を悪くしないでね。

あいつらはどーでもいいけど。「あいつら」はどーでもいいけど。

読者の皆さんごめんなさい。

「ひ、人さらい！は、早く道を開け！」

(ジ、ジャツジメー。。。ント!!!!)

「ゴシヤアアアアアアアアアアア!!!!!!!!!!」

「太陽————!!!!!!」

「ケンジ！どこへ行く！」

(俺を置いていくなあああああ!!!!!!)

俺は光を！光を求めているんだあああああ!!!!!!  
!!!!!!!!!!

今回はもう終わり！寒気の原因はたぶん作者だろ！

あいつは俺に恨みでもあるのかあああああ!!!!!!

鉄くずです。

今回、俺の出番がすくねえ！です。

作者は……前よりも気持ち悪くなって帰って来ました。

鉄くずハウス⇨工場ではありません。

鉄くずハウス⇨ファイアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
です。

意味がわからない？俺もわからないぜい！

今回は「作者の復活」「作者の性格」「シエルと作者」「シエルとケンジ」

がキーワードですかね。

キーワードかどうかは別問題です。はい。

長々とすみません。では、失礼します。

～鉄くず～

10 話目：消えない作者 膨らむ思い？（後書き）

作者は乙女なんです。

うそです。ただの変態です。

変態の中の変態です。

11話目：シルクハットⅡ危険人物（前書き）

バレンタイン チョコもらえなくて荒れてます。

更新が遅れた訳は

友達とバイオ○ハザード4をクリアしようと必死に・・・はい。すみません。

（ホントはネタが尽きたから。）

## 11 話目：シルクハット 危険人物

【久々の 鉄くずナレーション！ やったね！ ヤッホーイ！・・・  
すみません。

今回はなつかしいあの人が登場します。誰かはまだ決めてねえ！  
(うそ)

「太陽・・・俺の呪いを解いてくれー！！！」

前回 作者に呪われたケンジ。寒気がとれません。

今は洞窟のすぐ外 つまり砂漠です。

「人さらいの呪い？ (呪術師なのか?)」

難しい言葉知ってるねえ えらいえらい。

「今・・・誰かにバカにされた？」

(俺は嫌われ者さ。どうせ俺なんて。死ねばいいのに。)  
いろいろやばいぜ！精神が擦り切れそうだぜ。

「たいよー……………うー!!!!!!……………ってなんだ  
ありゃ?」

ケンジはなにかを見つけた様です。

さて、なんでしょう?

【暗黒街から200mの砂漠。ケンジ達までの距離 400m】

「あんさんどこに目 ついてますのん?」

だれやねーん。 悪い人Aです。

「え、いや……………あの……………すみませ……………」

誰かわかるかな? ケンジも俺もわかんない。

髪が長い。顔からして女性。

声は想像して下さい。でも女性だよ……………。

なんだろう。絶対ケンジと面識があるような……。そんな感じ。

灰色のエプロンドレスを着てる……。わかんね。

「すみませんじゃないんだよ。な、俺達がなに言いたいかわかるか？」

悪い人B。二人組みの悪い人。

「え……。わ、わかりません。」

俺もわからないーい。お前が誰かもわからないーい。鉄くずはなにがしたいの？わからないーい。

「わからないだ「黄金の 右腕！」じゃばらっ！」

何語やねーん。ん？テンションが低い？気にするな。

「だ、誰だてめえわあ！」

「俺か？ ケンジ大魔王です。よろしく。」

「あ、よろしく。」 「鼻がああああ俺の鼻がああああ。」

一人は乗ってくれた。一人重症。

「ケンジ……さん……?」

「あんた誰やね〜ん。会ったことある?」

「私です。エドワードです。」

「シエルいるか〜。いたら目閉じとけ。うん。」

「聞いてます?無視ですか?」

無視で〜す。無視で〜す。

「まず一人 デリート!」

「「パーン!」なにされた?俺?(しかもまた俺かよ!)」 B

「はい二人目 デリート!」

「「パーン!」これ三回目!(悪役Aが無傷!)」 B

「とりあえず……レディは大事にしる。男なら……な……。」

「男なんですが……。聞こえていますよね?無視してるだけですよね?」

「なにも聞こえないよー。」

「ダブルハンド・マグナム！」

今考えた！けどかつこいいのは思いつかなかった！

「オリ オンザ！」 B 「せぶるす！」 A

星座の名前？ ハリー○ッターに出てくる？

【雑談1】

なんかめんどくせえ。もう終わっていいですか？

「じゃあ帰れば？後は俺にまかせろ。」

マジで？じゃあ頼んだ。あ、ナレーションがいるなら作者に言うてくれ。

「わかった。じゃあ元気でな。（作者はいらない。）」

【雑談1 終了】

【スーパートークタイム】

「大丈夫ですか？お嬢さん。」

「エドワードです。絶対聞こえてるでしょ！」

「眠たいなあ。．．．え？なんか言った？」

「．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．」

「シエル。作者はどうした？」

「さっき砂漠の砂になった。(した)」

「しちゃったか。うん。いいセンスだ。」

「よしよしよし。えらいぞぞ。」

「こどもを褒める父親のようだ。自分で言うな」とか言ったら殺おお  
おおす！」

「．．．私は気が利くからな！」

「まんざらでもない様子。かわいい奴め。」

「俺は永遠に不滅。新入り 我が血肉となれ！」

「骨を発掘。(自分から出てきたけど。)

「ガシャン！」あ、潰された。

「ケンジさん。少し悪ふざけが過ぎませんか？」

お前にかーい！シエルじゃなかったぜ。

「女装が好きな変態め。お前だと知っていたら助けなかった。」

「女装じゃありません。エプロンドレスはセーフでしょう？」

「アウト！失格！退場！そして「ガシャン！」……………」

「人さらいは喋っちゃダメ！」ナイス突っ込み！

「私の副業です。なんでそんなに怒ってるんですか？」

「俺が少しトキメイタ女が…………お前だったなんて…………。死のう…………」

「私にはそんなことなかったのか？」「ありえねえ…………シエルはただの道具だ…………。」

「（そんな…………道具…………）」（笑え「ガシャン！」「るおお…………」）

ナイス突っ込み！って今のは誰でしょう？（作者の残骸潰したの）

正解は俺！ビックリしただろう？



「シエルさん！冗談抜きで助けて！ 汚される！変態に汚される！」  
笑えねえ！この話以降！俺は汚れた少年になってしまっ！」

「もう夜・・・はやく寝よう・・・。」

「諦めて下さいよ・・・さあ逝きましょう・・・。暗黒街<sup>ホテル</sup>へ・・・。」

「いやいやいやいや！ちょっと待て 漢字が違うよ!？」

「漢字の意味からして殺される！シエルさんマジ！マジでごめん！」

「逝ってらっしゃい。(地獄へ)」

皆様 今回でこの物語は終わりを迎えます。

今まで読んでくれてありがとう。

俺は恐らくもう帰れないだろう・・・。

じゃあな・・・。

雑談2 「これからの」の行方など

(うそです。)

まだ続きます。

ですがケンジの生涯は終わります。

次から主人公は俺様だああああ!!!!!(

鉄くずです。

まだ終わりませんし、作者は生き返りません。

ケンジはまだ死にません。

以上です。

(え？俺もう出れないの？)

「あなたの枠は私がもらいます。」

「わたしはどうでもいい。」

「作者の枠は鉄くずでいいじゃねえか」

次から( )はシルクハットで(笑)

すべてうそです(マジ)



11話目：シルクハットⅡ危険人物（後書き）

もうどーでもいーやー。

バレンタインチクシヨウ。

「鉄くずの一番輝いてた時期は  
幼稚園です。」

12話目：話は進みません。(前書き)

更新が遅れてしまい。

誠に申し訳ありません。

あとタイトルどおりです。

すみません。怒らないで下さい・・・。

この小説のヒロイン＝エドワードさん。

決定ですね。

後書きにケンジ達の誕生日を載せました。

よかったですらどうぞ。

12話目：話は進みません。

「なにも・・・見えない・・・」

なにも・・・聞こえない・・・。」

漆黒の闇 無音の空間。

これまで感じたこともない不安感・・・。

孤独感 絶望感。

これが俺の中にある感情・・・なのか・・・？

なんだか気持ち悪い・・・。

いろんな感情が入り混じって・・・。

本当に嫌な気分だ・・・。

少しでも気を抜けば・・・

なにかに・・・なにか・・・に・・・。

「ケンジさん？どうしたんですか？」

誰かの声がキコエル・・・。

「おい！しっかりしろ！ケンジ！」

コイツノ声は聞き覚えがある・・・。

（新入り！ケンジから離れる！）

コイツハ・・・ロンガイ・・・。

「ココハ・・・どこダ・・・？」

「ケンジさん！なかなか目が覚めないんで心配しましたよ。」

「ココは・・・どこなんだ・・・。」

「<sup>レスト</sup>暗黒街の宿屋です。急に倒れたんで（皆さんと）ここまで運んできたんです。」

「ソウか・・・じゃああれは・・・。」

とても嫌な夢・・・ああ・・・夢だ・・・。

気にする必要もない・・・些細な出来事の一つ・・・。

そんな日もあるよな・・・あるさ・・・ある・・・。

「どうかしたんですか？」

「イヤ・・・なんでモナイ・・・。」

「そうですか・・・のど渴いてませんか？ なにか持って来ましようか？」

「そうだな・・・ブラックコーヒーだノむ！ 砂糖アリで！」

「わかりました。少し待ってて下さい。」

【部屋の外】（なぞの空間断絶により追い出された）

「そこは突っ込む所じゃ・・・。」

(じゃあお前が突っ込めよ。)

「人さらいは黙ってて。」

(はいはい。わかりましたよ。140「ドスッ！」うぐおおおお。)

【部屋の外 終了】

鉄くずタイム発動！

「ふう・・・スこし・・・オちつコウ・・・。」

ケンジは窓を開けようとする・・・が、なかなか開かない。

「うらあゝ「パリーーン!!!」。」

冷たい風が部屋に 音を立てて入っていく・・・。

え？今のはなにって？ 窓を開けただけじゃないか？。

「そついえば・・・向こう(日本)はまだ冬か・・・。」

冷たい風に当たりながら 少し懐かしむ様に そつ一言。

「あ………雪が………」

その気持ちに應えるかのようじに 空からちらちらと雪が降ってきた。

ながい間まだなあゝ。 なにを狙まってるんだ？

「……向こうもまだ降ってるのか……？ 雪………」

地方によって異なりますが……。

とりあえず雪は積もらない程度に降るんじゃないかね？

「ケンジさん。砂糖はいくつですか？」

エドワードがいつのまにか部屋に入ってきていた。 (相変わらずエプロンドレスで。)

ノックぐらいしろよ。そんな顔でエドワードを見る

「39個。」「……溢れますよ。」「18個。」「……2個ですぬ。」

ときに厳しいエドワードさん。

突っ込みは苦手のようです。

「なにか・・・あつたんですか？」

「・・・なにか・・・俺が知りたいくらいだ・・・そのなにかを・・・。」

「ホームシックですか？」

「そんなじゃねーよ。俺がなんかこうなってああなってドーン。」

「そうですか・・・。その気持ちわかります。」

わかるのかよ！じゃあ読者に説明しろ！

「なんだ・・・その・・・口では説明できん！」

エドワードはなにがわかったんだよ！（さっきの その気持ちわかります。のこと。）

「ケンジさん・・・なんでも相談して下さいね。そのために私達が居るんですから・・・。」

さっきの なかったことにしたよ！何事もなかったかの（カット）

いいこと言っただけだよ！

「(ケンジさんはきっと私の魅力に気づいて【強制終了。続きは想像で。】)」

「(ケンジはこいつのなにがいいんだ？女装癖のあるこいつの……)」

(ケンジは必ず「死にさらせえええええい!!!by鉄くず」  
うううおおおお……。)

「あの夢は……俺になにを伝えたかったんだ？」

「一言言ってるいいか？」

「？ なんですか？」

「この話・・・なにが目的だったんだ？」

「うーん・・・私にはわかりませんね・・・。」

矛先 俺！ なんで書いたかって？

話を進めようとしてたらさあ。 主人公ケンジがあまりにもバカだから

少しぐらい痛い目に遭わせて「ドゥーン」「ぬおっ！

「よくわからんが・・・俺に新たな超能力が目覚「ドムツ！」グハ  
アツツツ！！！！！」

「ケ、ケンジさん！！！！大丈夫ですか！！！！！」

お・・・俺を・・・なめえるな・・・よ・・・。。。

「人さらい退散！」

「パーーン！！！！」（ハリセン発動。）

(うぬあっ！？俺かい！？) 「間違えた。退散！」

「パーーーーー！！！！」(ハリセン発動。)

(グヘアッ！？また俺かよ！！！) 「当たらない！？(鉄くずに  
」

シエルさんが突っ込みに慣れてきた「退散！」べぶろすっ！！！！

・・・ケンジの中にもそんな感情があったりなかったり。

そんなこんなを伝えたかった話です。

ホントはもっと長かったんですが・・・

小説を制作中 姉に消されてしまったため

短くなりました。

今回 話を進めるぜ！ と言っておきながら、進んでねえ！

はい。本当にすみません。はい。

怒らないで下さい。はい。

すみませんでしたあ！！！！！

12話目：話は進みません。（後書き）

ケンジ達の誕生日発表！イエーイ！  
（パチパチパチパチ）

2日かけて、脇役含めの誕生日を決定しました。  
（クジにより決定。）では！

春野 ケンジ 4月17日

作者 127月27日

エドワード 3月20日

シエル 6月4日

オリハルコン 9月1日

脇役A 不明

悪い人A 同じく

悪い人B 同じく

鉄くず 7月30日

友人 忘れたぜ！

脇役の誕生日 決まってるねえ！

おまけ2：Q&Aほか・・・（前書き）

おまけ2です。

最後らへんにケンジ達の必殺技的のあります。

おまけ2：Q&Aほか・・・

はい、おはこんばんちわ 鉄くずです。

今回 鉄くずでもよくわからない疑問など、

たつくさん自問自答していきます！

どうぞ、お付き合い下さい・・・。

Q なんで「異世界探検記!？」なの？

A 理由は二つあります。

1、鉄くずのネタ帳の名前が 「いろいろ探検記」 だったので

これでいーや みたいなノリでこれにしました。

2、最初は「異世界旅行」だったが旅行じゃないしな・・・でこれになりました。

Q なんで修正しない？はやくしろ。(など)

A これは・・・ごめんなさい。しか言えません。

はい。ごめんなさい。はい。

Q エドワードの仕事はどうなったの？

A ケンジに初めてあった日から、ずっとストーカーしてたので（仕事をしなかった）クビになりました。

副業は カフェのレジ打ち。 これもクビになりました。

Q お風呂はどうしてるの？

A 鉄くずも知りません。

いつのまにか入ってる？ それか暗黒街<sup>レスト</sup>で不法侵入。

Q なにを食べてるの？

A どちらかの民家から・・・略奪！・・・嘘です。

本当になに食べてんだ？

Q ケンジのポケットはどこに繋がってるの？

A これこそ異世界でしょうね。

たまにカレーやシチューも出てきます。

Q 鉄くずはネジなの？

A 人間です。

Q 誕生日はクジで決めたってホント？

A クジ制作で一日（でかくなりすぎた・・・）クジがでかくなかなか決まらなかったんです。

Q 鉄くずは10〜19って言ってるけどホントは？

A 12〜18にします。はい。これでも若いぜ！はい。

Q シェルってどこの国出身？

A リテリアではありません。

くわしくはまたこんどで お願いします。

Q 作者は死んだの？

A 死にました。

Q 特技はあるの？（ないと思うけど・・・。）

A 針の穴に糸を通すこと。

Q 自問自答って寂しくない？

A 寂しいです。

以上です。

これでもう疑問はなくなったはず！

・・・まだあります？ありますよねえ・・・きつと・・・。

それはまた今度 前書きか後書きかで！

あとは ケンジ達の技など

ケンジ

黄金の右腕 「ジャスティスハンマー」

リセット・ザ・リセット 「撮りなおし」

シエル

ハリセン 「裁きの鉄槌」

突っ込み初心者 「一撃必殺」

エドワード

「秘密です（ニッコツ！）。」 「秘密」

作者

死んだからいや。

鉄くず

文明の利器。 「ライフル・ショットガン・日本刀・睡眠薬・e t  
c . . . 。」

俺だけ卑怯？ なんでもあり ですから . . . 。

暖かい目で 続きをお待ち下さい。

おまけ2：Q&Aほか・・・（後書き）

はい。おまけでした。

13話目・冬の終わりと殺戮と（開幕）（前書き）

開幕！殺戮サバイバル！

三つにわけて更新していきます。

13話目…冬の終わりと殺戮と（開幕）

前回の話から10時間後……。

「シエル、エドワード、鉄くず、見る！」（え？俺は？）

ケンジが指差す方向。それは砂漠だった……はずなのだが……。

「昨日の……雪……ですか？」

エドワードも啞然……。

「あ、ありえない……絶対に……そんなこと……。」

シエルさんのいた国には雪が降らないのか？

めっさ驚いてますやん。めっさ真っ青ですやん。

「うん、俺は信じないからな！自分でやっついてなんだが！絶対に信じないからな！」

ああ、信じない。砂漠が雪でフウーイなんて信じない！

(みんな酷いな。俺は一体なんなんだ！)

いないほうがいい奴。帰れ〜帰れ〜。

(・・・もういい！チクシヨーーーー！！！！！！)

「ドゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオン！！！！！！！！」

なぜか自爆。あとかたもなく……。散った。

そして作者は鉄くずの影に戻っていった……。笑。

「雪があるんで！雪合戦対決！……と見せかけて殺戮サバイバルじゃ〜。」

殺戮サバイバルとは。

一人 生き残るまで殺しあう。

負け⇨死 の闇のゲームである……。反則なし。なんでもあり。

誰かと協力するもよし。一人で戦うもよし。

とにかく生き残れ。ただそれだけの冬の定番……。らしい(ケンジの説明によると)。

「・・・ケンジさん・・・それは私に対する挑戦ですか？」

「フハハハハ！そのとおり・・・。変態に負けてたまるかよ・・・。」

「それは・・・私も参加するのか・・・？」

ケンジ「当たり前」 エド「もちろんです（ニコッ！）」 鉄「俺はこたつで丸くなる。」

「人さらい2 やる気ない！しかも強制参加かい！」

「人さらいは作者。俺はゴミじゃない！」

「ゴーーーーン！！！」 タライ落下 「うううう・・・。」

「なにはともあれ 全員一致だな。じゃあ（元）砂漠に行くぜ。」

「ちよい待ち！一ツルールを追加していいか？」

「いいだろう！言うてみるがいい！」

「よし！エドワード君 説明よろしく！」

「追加ルール。」

この暗黒街<sup>レスト</sup>から、北に30km 西に20kmのところにある

リテリア最大の都市 ジスパ。

ジスパに到着するまでゲームは続き、ジスパの門をくぐりしだい終了了。

終了した人に攻撃は禁止。終了した人が 終了前の人に攻撃することも禁止します。

以上が追加ルールです。」

「ほう……つまり門をくぐる前に殺ればいいんだな？」

「そのとうりです。」

「そのとーりーり!!! だから俺はワープを(作者の のろろい  
く。)使えないだとお!!」

「(どう逃げよう……。私が真っ先に狙われるだろうし……。)  
」

【雪が積もり過ぎた砂漠】

「スタート!……から一時間は準備時間。」

「戦闘準備は一時間。そのあと会戦。・・・ですね。」

「俺は文明の利器を使い、魔法を使う・・・。安心しろ、死体はちやんと片付けてやるよ。」

「（神様。非力な私をお救い下さい・・・。）」

「俺に突っ込みはなし・・・か・・・。」

「それじゃあ・・・スタ――――――  
ト！……！！……！！」

一斉に走り出す。

ある者は近くの林へ（鉄くず）

ある者はジスパに向かって（エドワード）

ある者はエドワードを追って（ケンジ）

ある者はレストの教会へ（シエル）

さあ・・・誰が生き残るのか・・・？

【エドワードの視点】

ケンジさん・・・あなた本当に人間ですか？

なんでポケットから 拳銃やらマシンガンやらが出るんですか？

ケンジさんは武器なしだと思っていたのに・・・。

生き残れますかねえ・・・（泣）。

【ケンジの視点】

たしか・・・ホーミングロケットが・・・30発ぐらい・・・あつ  
たはず・・・だが・・・。

！ あつたあつた！ ロケットランチャー（弾がホーミング）装備！

開始二秒で灰になれええええええい！！！！

変態シルクハットオオオオオオオオ！！！！

【シエルの視点】

「神様・・・この哀れな子羊をお救い下さい・・・。」

変態に人さらにケンジ・・・。

容赦なく殺られる・・・間違いなく・・・。

若干17で生涯 閉じたくないよ~~~~。

### 【鉄くずの視点】

「まずはケンジだな。そのあと変態で・・・。

残ったシエルさんで物語を進める・・・と・・・。」

ケンジと変態は同士討ちを狙いたいしなあ〜

あんまり激しいバトルだとなあ〜・・・。

めんどくさいしなあ〜・・・。

・・・・・・！！！！ 読者の皆さん！！！！

・・・今のは冗談ですよ・・・はははは・・・。

冗談です！はい！冗談ですから！許して！ホントごめんなさい！

「道端に転がってるネジごときが！俺を殺せると思っなああああ

！.....」



13話目：冬の終わりと殺戮と（開幕）（後書き）

殺戮サバイバル。

誰が生き残るのか？恐らく鉄くずは死にます。

有力候補はエドワード！さあ・・・誰でしょうね？

Qエドワードっていくつなの？

A20歳〜22歳です。ケンジが大好きです。

14話目：鬼とメイドと殺戮と（終焉？）（前書き）

今回、（神技の部屋）の遊鬼さんと陽子さんをお借りしました。

過去の評価 感想を見る で神技さんのHPに行ってた後  
見たほうが私はいいと思うよお。

かつこの違い

遊鬼さん「」 陽子さん「」 ランタン（なし）

ランタンがぜんぜん手伝ってくれませんでした。  
実質一人です。はい。

ランタンのプロフィールを後書きに書いておきます。  
では！では！ 失礼します。

14話目：鬼とメイドと殺戮と（終焉？）

【シルクハットvs純白メイドさん（陽子さん）】  
「かつこ以外は俺だぜ！」ランタンより。

「残り 準備時間は12分！ 果たして（私は）逃げ切れるのでし  
ようか？」

「独り言とは余裕だな……。 貴様の寿命はあと12分しかない  
のだぞ？」

48分間のリアル鬼ごっこ。スタミナあるねえ君達。

その元気をもっとほかのことに使ってほしいわあ。 （ケンジ）

「（さて……。これからどうしま ドゴオオオオオオオオン！！  
！。。。なんの音ですか？）」

〔着地失敗〕

ああ。。。人が降って来た。よくあるよくある。

「（……！ この マークは……！） 俺は逃げる……！」

「え？ ケンジさん！……どこ行くんですか！……！」

エドワード君、漢字が違ってる（笑） 逝く でしょうが！ ……  
…違つかあ！

「俺は逃げる！！！！ ただそれだけ」（指閃）「ギイイイヤアア  
アアア！！！！」

（……………鉄くずの気持ちがよくわかるぜ…………ガクツ  
…………）

殺戮サバイバル 開始9分前 ケンジ リタイヤ（目が覚めるま  
で。）

「ケンジさああああああん！！！！！！！！！！」

「もう一回」

「ええ！！！！ さすがに死んじゃいま」（指閃）「あ…………。」

「ちよつ！！！！ ギイイイヤツホオオオオオイ！！！！！！！！」

「「ヤツホイ？」」俺も思ったが…………。気にするな。

「……………笑えませんか……………恐怖しかありません  
よ……………どうしましょうか…………。」

「……あなたが江戸単語さん？」

「……!!! ……か、漢字ではなく……か、カタカナ……です……。」

「そうなの ごめんね」

笑顔だよ。でもね、その笑顔から殺気がでてるよ。

「(皆さん……私にどうしろとゆうのです？  
指からちよつとやばい光線だす人に勝てると思いますか？  
勝てるわけないでしょう！……だから私も逃げていいですか？)」

それはわかってる！でもな！ ネタが尽きちゃったからやれ!!!

「それじゃあエドワードさん そろそろ始めましょうか」

「は……始める……？ なにを……ですか……？ (わかりますよ。わかりますけど……。)」

しばらくの沈黙……。すると陽子さんがものすごい笑顔で

「殺戮サバルバル」

そう、彼女の目的は殺戮（一方的な惨殺）です。

エドワード君を殺すためだけにきましたた〜。

「嘘ですよねえ〜・・・ははは・・・。」

顔は笑ってません。めっさ真っ青です。泣きそうです。・・・ちよっと泣いています。

「それじゃあ・・・スタート」

それは 第二次リアル鬼ごっこの始まり。  
捕まったらいろいろウエエエエエエイだよ！

それでは！ エドワードの断末魔が聞こえるまで、ケンジ視点に戻りましょうか。

【ケンジvs真っ黒いお兄さん（遊鬼さん） ケンジ視点にて】

「・・・フフフフフ・・・ハッハッハッハッツツ！！

！！！！！」

今の一撃で目が覚めた……。これは殺戮サバイバル。

男も女も関係ねえ殺し合い!!! 全員コロオオオオオス!!!

生き残るのは俺だけじゃあああああああああああああああ  
あい!!!!!!!!!!

「……………。」（氣を溜めています。溜める必要な  
いけどね：ランタン）」

「わお！遊鬼君じゃないか！ 殺戮サバイバルの参加は締め切っちゃたよ？」

いつのまに〜いたのかな？。ぜんぜん気づかなかったよ？。

ああ〜あ。この人いつも殺気ばっか放つてて怖いんだよなあ〜。（  
本音？）

それにくわえて顔も恐いつてねえ？ 完全に俺を殺すために生まれ  
てきたんだよ。きつと。

あ、そういえば 昨日 10円拾った。 いやあ〜ラッキーだ

った。

「……………殺波せっぱ!!!(話がながい!!!)」

「フツ 甘い!不意打ちが俺に通じ ドゴオオオオオ!!!  
・ ・ ・ や ・ ・ ・ や は り ・ ・ ・ 。

鉄くずのバカヤロー!!!なんで骨折なんかしたんだよ!  
ランタンが 俺とエドワードを本気で殺しにかかっているよ!  
殺されて 海に沈められて コンクリートにされちゃうよ!

(パニックッててなに言ってるかわかんね。)

「お前は俺を本気にさせた!!!ジャー スティースハンマー  
-----!!!」

本気でいくぞ若造がああああああ!!!

「うるせえ!!! (鬼滅拳!!!)」

「なめるなあああ メキヤット!!! ぐはあああああ!!!」

……死にました。

「はやっ!!しかも死んだ!!」

「天国へ~~~~。逝つて来ま~~~~す。」

「生き返った!!……(滅波!!)」

「天国 ドゴオオオオオオオオオ!!……!!」 (消滅しちゃったぜ)」

「………終わりがよ!! 弱すぎるだろ!!」

「誰かああああ助けて下さああああいいいいいいいい!!」

「……」の声……嫌な予感が……。」



向こうはいい感じだ ドスッ！ ぐへああああああ……。

「ごめんね わざとだけど」

「やっぱりわざとかい！ って俺なにされた？」

「あ、ありがとうございます。」

「……………離れてくれないか？」

「照れてるんですか？」

「なんで男に照れるんだよ！！（こいつ！！ガチホモ属性か！！）」

「ケンジさん亡き今、私の心の支えはあなただけです。」

「（告白された！？）離れろ！！気持ち悪い！！」

「その言葉、私にしたら褒め言葉ですよ。」

「陽子！！こいつをどーにか……」

〔雷塊（大） x 100〕

「俺で遊ぶなあああ！！！！ x 100」

「……………おいおいおい！！！！」

「もう殺戮サバイバルなんかどうでもいいです！！！！さあ、一緒にホテル……………」

「おい！！とりあえず誰でもいいから！！こいつをなんとかしろ！！！！」

「さあ行きましょう！！！！」

「離せて！！！！おい！！！！ドゴツ！！！！」

「しずかにして下さい　最近はかわいい人が多くてうれしいですねえ」

ズルズルズルズルズルズル……………。

遊鬼&エドワード　リタイア　（エドワードの気がすむまで）

〔雷波 x 100〕

「ぐへええええええやあああああ！！！！！！！！！！ x 100」

陽子&ケンジ リタイア (陽子さんのケンジ遊びが終わるまで)

14話目：鬼とメイドと殺戮と（終焉？）（後書き）

ランタン

誕生日 2月27日 今日だ！

特技？ 剣道 柔道 合気道 書道

血液型 何座？ 忘れた。ごめんね。

神技さん 遊鬼さん

キャラがオカシクなってもしりません。

うそです。いろいろごめんなさい。

読者の皆さんへ

今回はかなり焦って更新したため

話の内容がよくわかりません（俺もわからねえ！）

しばらくしたら修正を開始します。

すみません。はい。

15話目：シエルと帽子と殺戮と（前書き）

なんだかんだで次もこのシリーズです。すみません。  
次の話を更新したら、修正を開始しようと思います。

それでは本編へ。

## 15 話目…シエルと帽子と殺戮と

【シエル&遊鬼vsエドワード ・レストにてシエル視点・】

「フフフフフ……………もうすぐで着きますよ……………」

「

「……………」 「気絶中。」

……………なにやってんのあなた達？

お久しぶりです。

今回の主役は私らしいんですが……………

開始そうそうハプニング。

遊鬼さんが変態ヘンテーにズルズル引きずられて行っています。

助けないといけない？…………無理ですよねぇ。

「…………シエルさん……………あなたに私を止められますか？」

「!!!! (気づかれてた!?)」

「私と遊鬼さんの愛の力を あなたに止められると思いますか?」

止められるワケがないだろ!!!!

しかも遊鬼さんは無理矢理つれて行かれてるだけだし!!!!

「誰にも邪魔はさせません。フレア・ウォール」

(炎の壁を召喚し、その壁に触れた者を 地獄の業火で灰にする。壁は真つ直ぐ前進し 30秒間ほどで消える。

鉄くずが13秒ぐらい悩んで決定した魔法だ。)

「まさかの街ごと!!!! さすがに死者が出るぞ!!!!」

突っ込んでる場合じゃない、壁を早く<sup>あれ</sup>なんとかしないと!!!!

「さあ・・・行きましょうか・・・。」

変態<sup>エドワード</sup>が遊鬼さんを連れて行ってしまった。

はやくしないと 取り返しをつかないことになってしまう!!

「・・・なんとかなれ！」

壁「はい、わかりました。」

(壁が消滅。)

・・・なんとかなった!!! しかも喋れるのかよ!!!

「言ってる場合じゃなかった。ハリセン装備!!!」

どこから出したかって？ そんなの聞いたらダメでしょ。

(ケンジに似てきたな。最初は全然突っ込みもなかったのに・・・)

「起きろっ!!!」

ゴスツ!!!

・・・音がかなり鈍い・・・。 気のせい？

しかも遊鬼さんに突っ込んだじゃった。・・・。

「・・・嫌な目覚ましだな・・・。」

怒った？ 誰かが摩り替えたんだよ！私は悪くない！ はず……

間違えて突っ込んだ私の責任？ 知らない知らない！！！！

「……シエルさん……おとなしく見守っていればよかったものを……」

エドワードが怖い！ 負のオーラが体を包んでいる！！！！

「女性を殺すのは趣味じゃないんですが…… 仕方ありません……」

こ、殺される！ 冗談抜きで怖い！

顔がまるで般若はんにゃのようだ！！！！

「フレア・」とりあえず死んで来い！！！！」

遊鬼さんの右ストレートが炸裂！！！！

「遊鬼さん…… あのまま眠って」だまれ！！鬼滅拳・乱！！  
「にゃにい……」

あ、しばらく時間が掛かりそう。 少しカットします。

「即滅突!!」

(天上天下天地天翔天骸天楼無双刀(てんじょうてんかてんちてんしょうてんがいてんろうむそうとう)による技、

そくめつとつ  
即滅突

(急所に当たれば相手は即死、外れたら自分にダメージを喰らう一撃必殺のギャンブル技(遊鬼はこの技をあまり好まないので滅多に使わない・・・らしい))

「シルクハットガード!!! これでなんとか!!!」

無理でしょ。

ドゴオオオオオツツ・・・ドオオオオオオオオオオオオオ  
ン!!!!!!

なに!?! 今の少しの間!!!

「遊〜鬼さ〜〜ん 私は諦めませんから〜」 キラ  
ーン!

(その後エドワードは ジスパにある時計塔に突き刺さっていたのを救助された。

直撃したのに生きてる!!! 生命力だけすごいな!!!)

「……大丈夫ですか？（さつき撲つた頭）」

「？ 大丈夫に決まってるだろ！！（エドワードの魔の手）」

「よかつたあゝ。初めて思い切った行動とつたからドキドキして  
た。」

「ああ……そう……（疲れてる）」

「そつといえば……ケンジはどうしてるんだろ……？」

「……知らないほづがいいと思つぞ。いや、マジで。」

真剣な顔。 恐らくあの白い人のことだろう……。

「大体予想はつくけど……一応見に行ったほづがいいよね……」

「俺は警告したぞ？ 責任はとらんからな！！」

なんの責任だよ。 とは突っ込まないでおこつ。うん。

「陽子ラスボスさんはどう説得すればいいんだろう？  
いろいろ大変だなあ……。」

なんで ゲストの名前を知ってるのか？

だってメインキャラだし。 それぐらい知ってて当然でしょ！

（なんで無口が治った？ ケンジか！ケンジのせいか！！！）

そうじゃない？ どーでもいいけど。

（どーでもいいのかよ！ とは突っ込まんからな！！！！  
ややこしくなるから 突っ込まんからな！！！！）

次回の主役も私だと思っ。 よろしく。

（俺もそうだと思うとは思われないと思っと思っよおっ！！！！！！）

15 話目：シエルと帽子と殺戮と（後書き）

まだ続くのかよ！

とは言わないで下さい。はい。

ケンジは回りの人間も変えるんですねえ。はい。

更新ペースがなかなか戻せません。

ごめんなさい。

16話目：〜そして舞台裏へ〜（前書き）

今回で、4話続いた

殺戮サバイバルは終了です。

今回から、修正を開始していきませんが、

修正といっても 文を足したり 減らしたりするだけです。

それでも、会話などを多く追加していくので

よかったら、読み返してください。

後書きに報告があります。

16話目：～そして舞台裏へ～

【破壊神純白メイドvs突っ込み勇者】（帰ってきた鉄くず視点にて）

「陽子さあ～ん・・・正気ですかあ～ん・・・。」

「フフフフフ・・・ 問題なし・・・。」

なにが！？ なにが問題ないの？ ケンジを殺すこと？

「もちろ～ん・・・ フフフフフ・・・。」

なにげに会話が成立してる。

なるほど！イイセンスだ！！！！

「なにがだよ。 俺も突っ込む時は突っ込むぞ。」

あ、ケンジく～ん。 生きてたんだあ～・・・。

・・  
????????????????????

なぜ生きている!!! 陽子さんはまだ正気じゃないよ!?

「いやあく・・・ねえ! 御迎えがきたんだよ。うん。」

・・・へえ。そうですか。

「冷たいね。俺のこと嫌いか? だからもうどうでもいいのか?」

いや・・・どっちかってゆうと好きの部類に入る。うん。

(しばらくの沈黙が・・・)

「とりあえず死んで来い。見守ってやるから。」

冗談だつてえ〜。1パーセントの冗談だつてえ〜。

(しばらくの沈黙が・・・)

「（死ねばいいのに。）」

【地上対戦の開始】

傍観者　：　鉄くず・ケンジの魂・今は亡き作者の面影

巻き込まれそうな人　：　遊鬼君

突っ込み勇者　：　シエルさん

史上最強最高最悪純白メイドであり、全てを無に還す者　：　陽子さん

提供　：　く鉄くず&ランタンく

「陽子さあくん……。大丈夫ですかあ……。」

シエルが聞く。

なにが大丈夫なのだろうか。 ケンジの抜け殻？

「壊れちゃったかあ・・・ フフフフ・・・」

ケンジのことですね。はい。

陽子さんが 血で染まっています。 終盤は電撃じゃなかったようですよ。 はい。

「（遅かったか・・・。 残念・・・。）」

顔は 「どっちでもいいけど・・・。」 みたいな顔しています。

ケンジも 「どっちでもいいや・・・。」 みたいな顔しています。  
なぜ？

「・・・あ 新しいおもちゃ・・・ みつけた・・・」

会話が成り立ってない！ けど『新しいおもちゃ』はシエルさんじゃね？

普通に考えて。 うん。



鉄「よし、新たなヒロインを考えようか。」

作（みんな〜。 久し ぷちっ！。 ）

ケ「じゃあもうエドワードでよくね？ 実は女だった ってオチで。」

鉄「そうするか、うん。 じゃあエドワード呼んでくるわ。 新しい設定を考えていこう。」

ケ「新しい突っ込みも考えないといけないしな。」

（ここで鉄くずが退場する。）

ケ「…………… シェルはどうしてるかな？」

（ケンジは望遠鏡を覗き込む。）

ケ「…………… うっそだあ〜。」

「こんなところにいた………… さっきの続き………… 始めましょ…………」

（しばらく音が途切れる。 録音器具が電撃でショートしたようだ。）



【シエルさんの視点】

「……………あれ？」

私が目を開けると、そこにはケンジの屍があるだけで

最強メイドの陽子さんの姿はどこにもなかった。

「とりあえず……………助かったってことでいいのかな？」

いいよね。うん。

「陽子さんが帰ってくる前に……………はやく街……………だっけ？に行かなきゃ……………」

たしかジスパか……………。

人さらい……………じゃなかった。ゴミのネーミングセンスって悪いどころじゃないよね。

キャラクターの名前とか酷いのばっかだし、

真面目に考えた名前はケンジだけらしいよ。酷いね。

（文句を言いながらジスパに向かうシエル。ケンジを背負ってま

す。  
)

「今回なにもしてないなあ……。暇だったあ〜〜。」

結局ケンジはどうなるんだろ

もし、もし生き返らないなら……………

次の主人公は誰になるんだろう……………。

「たぶん私ですね。はい。」

変態がいつのまにかついてきてたみたい。



「なるほど。理解した。」

「遊鬼さんも終わりですか……。次のターゲットは……。」

「ええ！？ 矛先私！！！」

変態がついに本性を表した！！！！！！

「私はこうゆうキャラクターなので、仕方ありません。」

「へ、変態！！！！ 近寄るな！！！！」

「まだなにもしてませんよ。まだ……。」

まだってことは……。

「変態退散！！！！」

「フッフ 冗談ですよ……。私の心はケンジさんのモノですか  
ら……。」

本気で言う！ こいつは変態の領域を超えている！！！！



はあ、結構やばかった……。」

そーゆーことで！ 私達の新たな旅が始まったのである……。

【舞台裏】

シ「ケンジって結局死んだの？」

エ「物語の都合上 生き返るじゃないですか？」

鉄「まあ…… 原型を保っていれば生き返れるよ。」

遊「……………」

陽「やりすぎちゃった」

シ「ケンジなら大丈夫……だと思う……。」

エ「私の心を盗んでいった人です。 大丈夫ですよ。」

「同」・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

工「なんで皆さん 黙るんですか？」

鉄「少し考えればわかると思うぞ。」

遊「・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

鉄「早く 変態エテワートから離れたい。 だそつだ。」

工「ケンジさんが帰ってこないなら・・・・。 遊鬼さん、わかりますよね？」

(遊鬼君が勢いよく逃亡)

工「逃げ切れるとも思っているんですか？ 無駄ですよ・・・・全  
て・・・・無駄・・・・。」

(しばらくの爆音)

鉄「それでは、解散します。」

「同『あじがとんいんれこましたー』」

16話目：〜そして舞台裏へ〜（後書き）

更新がかなり遅れてしまいました。  
すみません。

今回、OHPメーカーってゆうやつをランタンが強制的に始めました。

機械に弱いランタンが とりあえずがんばります。はい。

詳しくは、なるうの『みんなの掲示板』に書いておきます。だ  
そうです。

長くてごめんなさい。

17話目：そして誰もいなくなった・・・のか？（前書き）

更新がかなり長い間滞ってしまい、申し訳ございません。

（後書きになんか書いてます。）

あと、まだ続きます。



ゴミロンビのネジのほう……。うん。

なんで私がこんな長々と話をするかって？

それはね……うん……えーつとね……。

さっきケンジとエドワードが……。

ケ「エドワードの髪が長くて気持ち悪い。髷ってくる。」

エ「なんで髷るんですか！ 切れと言うなら切りますよ……！」

ケ「安心しろ、一本一本丁寧に髷ってやるから。」

エ「もっと嫌です……！ 切りますから怖いこと言わないで下さい……！」

ケ「……………。」  
(髷らせるよ……的な目。)

エ「行ってきます……！」

ケ「あひゃひゃひゃひゃひゃ……！ 逃がすかあ……！」

【そして宿屋】 シェルさんの視点。

と、ゆーことがあって……。

今は 大都市ジスバの宿屋2階で彼等を待っています。

泊まる時 ケンジが受付の人になにか突きつけてたけど……。

気のせいだよね……。 うん。 幻覚幻覚……。

まあいろいろあって今は午後9時ぐらい。

ケンジ達が出て行ったのが7時だから……。

少し遅くない？ どーでもいいけど……。

と、いろいろ説明してますけど 隣の部屋で 鉄屑とランタン  
と友人A（誰だよ）が飲み会してます。

現実での飲み会はもう終わったらしいけ「そこには触れないでほしいなあ……。」ど、

ああ、あと鉄屑はまだ未成年らしいよ。うん。ビールの代わりにオレンジジュース「お願いですって……。」スを飲んでたんだって。

後半 ビール一口で酔っ払って（無理矢理飲まされた）友人Aと殴り合いしたらしいよ。

そこでランタンが「うるせえ馬鹿共！！日本海に沈めるぞ！！」「って言って決着したらしいよ。

そのあとお隣さんが来て かなり長い間説教されたんだって。

ホント馬鹿だね。 そんなことが現実リアルにあるなんて。

もう救いようのない馬鹿だよな。

鉄・ラ・A『本当にあつたありえない話でした。』

シ「そのあと」もうやめてくれよ！！！！『……むう。』

仕方ないからひとまず終わります。

【ここからずっと会話のターン】

ケ「ただいま〜。 いや〜、いい気分だ！」

エ「およよよよよ……………。 もうお婿むこにいけませんよお……………  
……………  
……………。」

ケ「肩にかかるぐらいまで切りました。 はい。 それだけじゃあああああああ……！！！！！！」

エ「私にとつたら大問題です……！！ 遊○さん……………  
……………  
……………。」

シ「そのネタ引つ張り過ぎだろ。」

ケ「いいじゃねえ〜か。 あいつ等は俺のココロの友だぜ……！！」

ケンジは親指を立ててグツ！ ってやった。

シ「1回殺されたの？」

ケ「……………。 お〜いシエルさ〜ん。 頭は大丈夫か〜い？ 俺は生きてるよ〜。」

シ「……………  
……………。 そう。 よかったね。」

エ「私はスルーですか？ スルーなんですか？」

全員「あ、エドワード変態。 そついえばいたんだっけ……………。」

エ「……………それはさすがに酷くないですか？」

全員『あ、もういいよ。　おやすみ。』

エ「なんで私が弄いじられないといけないんですかあ……。　ケンジ  
さんでいいじゃないですかあ……。」

ケ「時に人間は　乗り越えなければいけない壁にぶち当たるもんな  
のさ。」

シ「ケンジが言うと言得力が……。」

ケ「……。お前が寝る時　怖い話をみっちりこっぴり聞かせてやる  
からな。」

シ「……。青ぞめていく」

全員『お前はこどもか!!!』

シ「な、なに言って……。　別に怖くなんか……。　はは……。」

全員『（めっちゃ怖がってますやん……。）』

ケ「そろそろ寝ようか。うん。飽きた。」

全員『飽きたのかよ!!!』

ケ「鉄くず、その全員ってのやめるよ。　6人も同時に同じこと言  
ってたらうるさいんだよ。」



シ「お、おやすみ……。」

全員「おやすみ。」

全員『……………』

鉄「……………あれ、もう主要キャラクターいなくね？」

ラ「（もう飲み会メンバーしかいねえよ……。）」

作「一人帰ったよ。」

全員『……………鉄くずとランタンしか残ってねえ……！』

作「えっ？俺は？ いるよ……！！ 一人いるよ……！！」

鉄・ラ『もうどーでもいいことだな。 おやすみ。』

作「あ、うん……おやすみ……。」

ソシテダレモイナクナッタ。



17話目：そして誰もいなくなった・・・のか？（後書き）

作者の元ネタは本当に女性です。

あとHPはちよびちよび更新してます。

（作者紹介ページにも書いてますが・・・。）

それではそれでは 失礼します・・・。

18話目：ケンジは2度死ぬ（前書き）

またもやシエルさん視点。

もうネタが底をついちゃったZEEI!!!

あと・・・今更ですが・・・。

『ランタン』さんって人が『小説家になろう』にいました。

その『ランタン』さんとランタンは別人です。・・・はい。  
本当に今更でごめんなさい。

事件の真相は続きに書きます。  
今しばらくお待ち下さい。

## 18話目：ケンジは2度死ぬ

「おはよ〜……………ケンジ？」

…………目覚めた私の目の前にあったのは、冷たくなったケンジだった…………。

〈異世界探検記!?!〉

「……………なにこの始まり方？ おかしいよね、おかしすぎるよね。」

さっきの小話はなに？ 私がケンジを殺したとでも言うのでしょうか？

とりあえずネジ&コミを叩き起す。

「たまにはいいじゃないか。こんな始まり方も。」

コミはお気楽すぎるね。あとでコミ箱に捨てよう。

「ランタンの言うとおりだ。たまにはこんな「なにか言いましたか  
〜?」「ごめんなさい。」

ネジはあとで……うん。生まれてきたことを後悔させてやる。

「とりあえず、ケンジが動かないんだけど……。」

『動かない』は正しくないかも……。

……気にしたら負けだよ読者諸君。

「なんとかしろ……と、そうゆうことですか……。」

「きつとそうだろ。それしかありえないぜ!」

……さっさとなんとかしろ。その気持ちを一言で表そう。

「あと3秒でなんとかしてね。」

ネジ&ゴミ『無理でしょ!!!!』

さっきの無駄話で7秒使ったから　あと3秒。　そういつとでいいか。

ネジ&ゴミ『長くても10秒だけかい!!!!』

あ、声に出ちゃってたみたいだね。　・・・気にしない気にしない。

「どーでもいいから早くしてくれないかなあ・・・。」

今のはかなりの殺意を籠めての一言。

向こうのネジとゴミはそれを理解したようだった。

『ケンジーーーー!!!.....　起きろーーーー!!!.....』

メガホンやらなんやら使ってケンジを起そうとする。

そこまでしないと起きないのか？

・・・もしかして御臨終ごりんしゆう? ・・・それはないか・・・。

「・・・ハン・・・ニンは・・・」

ケンジが小さく 本当に小さく言った。

「ハン・・・ニン・・・は・・・俺・・・の・・・  
横で・・・寝てた・・・奴・・・」

犯人は俺の横で寝てた奴。

たしかにそう言った。 そう聞こえた。

・・・ちゃんと喋ってほしいなあ・・・。  
読者に迷惑だよ。

「犯人・・・ 〓 作者？」

・・・それは違うと思うよ。 ちなみに今はネジです。

「犯人・・・ 〓 俺？」

お前!? ケンジの横で寝てたの私だけじゃないの？

あ、今のはゴミの方ね。

そのとき、ネジ&ゴミ+変態エドワード(いつからいた?)が私を見た。

さっきの『ケンジの横で寝てたの私だけじゃないの?』が声に出してたんだね・・・うん・・・。

「お前が犯人か・・・。凶器はなんだ!!!」

うっ・・・ネジのくせに・・・。

急に調子にのりやがって・・・。

「お前が殺ったんじゃないかよぉ・・・。なあ姫さんよぉ・・・。

」  
こいつ・・・かなり調子にのってる・・・でも少し怖いかも・・・。

「羨ましいかぎりです・・・。まさかケンジさんが寝込みを襲われるなんて・・・。」

こいつはもうダメだ。



!!

そんな完全変態トリオが迫ってくる。

逃げようか戦うか迷ううちに、私は壁にぶつかった。

「最近ストレス溜まってたんだよなあ……。銃殺か撲殺かどっちがいい？ 選ばしてやるよ。」

絶対病んでる!!!

私の生命の危機率120パーセント!!!!!!

「安心なさい。一発で楽にしてやるから……………」

ネジが『殺』のオーラに包まれてるよ!!!!!!

しかもお前ら小説(?)のキャラじゃねえだろ!!!!!!

「ケンジさんの仇…………ゆーことで……………」

お前にだけは殺されたくない!!!!!!

死んでも死に切れないとは正にこのことだろう。 っって言うてる場



「その3バカあああああ！！！　一つ言っておくぞおおおお  
おおおお！！！」

そう言叫ぶと　ケンジは大きく息を吸って　言った。

「シエルで遊んでいいのは俺だけじゃああああああああああ  
ああああああああああ！！！！！！！」

「……………もっとココロにドキッってくる言葉は言えないのかよ  
！！！！！！！」

「……………ケンジがそう言うなら……………」

「……………仕方ないなあ……………今回はここまでにしてやるか。」

「私はやめませんよ？　新たなヒロイン位置のため……………」

「……………とりあえず騒ぎは終わったみたい……………。  
っと思っただけど若干一名諦めてない！！！」

「ポイズンフレア！！！」

新技使うタイミングが今かい！　もっと使うべき場面があるだろう



「どいおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおお（略）おおおおおおおおおお。。。。」

。。。辺り一面焼け野原。。。

さっきまでいたはずの宿屋も。。。消し飛んでいた。。。

「ケンジは。。。一体。。。なにを。。。。」

私の意識はそこで途絶えた。

「?GAME OVER?」

18話目：ケンジは2度死ぬ（後書き）

GAME OVER ではありません。

次のスタートは病院ですかね・・・ははっ・・・。

やっと更新ペースが戻ってきました。

でも続きは早くても3日後かなあ・・・すみません・・・。

19話目：結局なにがしたかったんだよ（前書き）

鉄：更新遅れてごめんなさい！！！！　ラ：次は1週間以内で更新します！！！！

鉄：勝手に決めるなよ！！！！　ラ：更新できなかつたら死刑です。

鉄：ええええええええ！！！！　ラ：半分冗談（笑）

今回は本当になにがしたかったのかわかりません。

鉄くずとラントンもわからない話です。

なんで作ってたんだろう・・・。

19 話目：結局なにがしたかったんだよ

【病院】 ケンジ視点にて

「シエル起きろ。起きないと顔がとんでもなく腫れ上がるぞ。」

「暴力はダメですよ。さすがに今は……。」

「……ごめん。さすがにふざけすぎたな。」

「……では私が彼女を冥土に送って「やっぱりか!」……ばれましたか?」

「オマエハ オレサマニ コロサレタイノカ?」

「なぜカタカナ!!! そして怖いです!!!」

「シエルを殺しているのは俺だけだ。お前には指一本触れさせん。」

「ケンジさんが殺したらダメでしょう。」

「俺は世界を統べるケンジ大魔王だからOK。」



「めんどくさいですね。」

俺は結構好きなんだけどなあ……。

「毎回これでもいいんじゃない？ 俺こーゆーの好きだし」

「ですよね！ そろですよね！……！」

変態が鬱陶しい。そしてうぜえ。

ホント今更だけどさあ、なんで変態がついてきてんの？

「あんまりうざいと殺しちゃうよお？ 気をつけてねえ。」

「軽いです……！ 物騒なことをそんな日常会話風にしないで下さい。」

日本語しゃべりやがれコノヤロウバカヤロウ。そしてコンチクシヨ……。

「……やることねえなあ……。」

「でしたら私との愛を育みま」殺されたいの？ いいよ、殺してや

るよ。「嘘です……！」

ホントうぜえ。 うざってい!!!

・・・なんか言わないとダメかなあ・・・。

「シエルが・・・ 眠ったように死んでいる。」

「逆じゃあないんですか？」

「・・・・・・・・・・。 眠ったように死んでいる。」

「それで突き通すのやめて下さい!!!」

間違えたただけだもん。

俺は悪くないんだもん。 エドワードが全部悪いんだもん。

「とまあ、開き直りまして・・・ シエルの寝顔(?) 鑑賞で  
もしようかな。」

「私も付き合いますよ。」

お前はやらんでいい。

と言いたいが 一人でやるとなんか寂しいのでとりあえず一緒に鑑

賣するにやにっしやぬよ。(??)。

ジ  
-----  
ツ

シエル「……………」。

ジ  
-----  
ツ

シエル「……………」。

ジ  
-----  
「……までみ  
てるうんだ……………」

……………そろそろやってみるかな……………。

「エドワード、ほつぺた突っついてみる。」

「触れたらケンジさんに殺されます。」

「今回は許す。今回だけな。」

「……なにか裏があるとしか……」

エドワードに秘密の写真を見せる。(最近撮影したそうです。)

「……どこでそれを……。」

顔が青ざめていくのがメツチャわかるZE!!!

「まさかお前が「やります!!!」XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。」

読者はわからなくていい。これは結構ココロが折れるから。

俺はこの写真を撮るとき、結構引いた。(自分とエドワードに)

まさかここまで男をやめたかっただとは……

悪いことしたなあ……。(髪切らせたこと)

「ぐすつ……やりますよ……やります……。」

泣いちゃまったZE

うわぁ・・・俺が悪いみたいじゃねえかYO!!!

・・・・・・・・俺が悪いのか。

「失礼します・・・。」

「ツンツン フニフニ ビョーーーーー」

俺は突っつけとしか言っていないぞ？

もう知らねえーからなあー。

「フニフニ ビョ」ガシッ!「ー・・・ パッ」

「・・・ケンジさ〜ん・・・ シェルさんに捕まりましたあ〜」

「見ればわかる!?!?!」

満面の笑顔で返してやる。 楽しくなってきたZEY!!!

「ケンジさあ〜」ベキッ!?!?!「!?!?!」

エドワードの側頭部にシェルの拳が叩きこまれる。

「ゴキッ！ メキッ！ メキョ！ グワシヤ！ メリメリ！！！！  
ギギギギギ……！！！！ カーン！！！！」

エドワードの顔やら腹やら腕やら足やら顔やら腹やら顔やら顔やら  
顔やら顔やらを連打連打連打！！！！！！

途中ってか最初から音がいろいろおかしいよね。 あと音のバリエ  
ーション少なっ！！！！

まあそこは温かい目で見守ってくれ！ よろし「ドムッ！！！！」！  
！！

ルの視点  
　　～そして、3年の月日が流れた～  
シエ

「嘘つくな！ って……大丈夫か！！！！」

ケンジと変態とネジとゴミと誰かわかんない奴が倒れている。

なにかあったの？ 壁らしき物も多少穴が空いてるし……。

(「ここがどこかは薄々気がついてるから言わないね」)

「陽子さんのマネしてんじゃねえバカヤローコノヤロー……。  
がくっ」

力尽きた？ ……今のケンジだった！助けないと……！！

「私じゃダメな「ケンジ……ッ……！！」……がくっ」

なにか聞こえたけどそれどころじゃない……！！

ラ「なんで俺達も倒れてんの？」鉄「ノリで」友人A「海苔で」

ラ「お前帰れ。」

ケ「お前等全員帰れ……。」

ラ・鉄・A『アイアイサー……！！』

「ケンジッ……！！ 生き返ったの……？」

日本語が多少おかしいのは仕様です。

「死んでます。 生き返ってません。」

普通に喋ってるから生きてるか・・・よかつたあ・・・。

「お前に殺られて お前に助けられる。 これも運命か・・・。」

「なんの運命だよ!!!」

「あの・・・ 私は「黙っててくれない?」はい。」

その後、無事に退院　ケンジ視点

「カットしすぎじゃね?」

おもしろい所がなんにもなかったから仕方ないけど・・・。

「なんで私は病院にいたんだろ・・・。」

「みんなで殺しあつたあげくの結末。」

「じゃあ仕方ないか・・・。」

そうして、俺とシエルは 宿を探しに街に出た。

）  
完  
）

19 話目：結局なにがしたかったんだよ（後書き）

次はおまけ！ とゆーか買い物に出かけます。  
間違っても強盗、略奪はしませんよw

最近の睡眠時間が2時間ちょいなので  
更新のペースは不定期です。  
ごめんなさい。

20話目：服のセンスは必要か？（前書き）

多少 文章が抜けていると思います。  
また時間が出来次第修正を・・・はい。

ケ「シエル。」

シ「・・・？ どうしたの？」

ケ「エドワードも名前で呼んでやれ。」

シ「・・・なんで？」

ケ「可哀相だから。」

シ「・・・わかった・・・。」

## 20話目：服のセンスは必要か？

【都内某所の洋服店（？）】　　くエドワードの視点ですく

「俺って服のセンス・・・ないのか・・・？」

「・・・ごめん。全然ないと思う・・・。」

く異世界探「もう飽きた」なんで!??く

はい、本格的な私の視点は始めてですね・・・。エドワードです。

今日は皆さんの服を買い換えようと！最近できた（らしい）洋服店に来ています。

ケンジさんがまるで、女の子の様にはしゃいでますね・・・フフッ

自然と笑みが零れてしまいます・・・。

「これなんかどうだ？　結構似合うと思うぞ」



次の渡した服は・・・

服と言っていていいんでしょうか？

猫耳・首輪・尻尾付き 「なに」には想像でお願いしますね。

「・・・今日が命日になるよ？ ケンジくん。」

顔は眩しいくらいの笑顔なんですが・・・

殺気が半径10メートルくらいまで溢れてますよ？

「じゃあこれでどうだあああああああああ！……！！！」

次に渡した服は・・・

長めの白いスカート、そして白いなにか、そして白いなにか。

なにかってなんだよ……！ と言われましても……わかりません。  
なにかですから。

「・・・着替えてくる……。」

よくわかりませんが、全体的に白い服です。

陽子さんの様になりたいんでしょうか……。不明です……。

「じゃっ！ 次は俺の服じゃあああああああああああああ  
あ！……！！！」

ケンジさんが光速の速さで服をとり、着替える……！！

「かん……。べき……。……！！！」

全身スーツ（黒）に身を包んだケンジさん。

……。どこかのマフィアにしか見えません……。

「似合うだろ……！！ な、エドワアアアド……！！！」

「え……。ああ……。」「マフィアにしか見えないぞ。」「。」「

シエルさんが助け舟を……！！ ありがたい限りです……！！

「……。そうか。 じゃあ次じゃあああああああああああ  
ああああああい……！！……！！……！！」

ケンジさんがまたしても光速で服を探しに……。

「服のセンスがないのは……演じているのか……それとも本当にセンスがないのか……。」

やれやれといった様子でシエルさんはため息をついた。

……

今のシエルさんの服装……！！

少し古臭そうなジーパン！そして半そでのシャツ……！そしてなにかを思わせる黒い手袋……！！！！！！

口では説明し辛いんですが……。

とても、ボーイッシュです……！！私の理想の年齢を一回り下げたら……もう……。

フフフフ……もうダメです！族に言う「お持ち帰りい〜」ですよ……！！

「……だ、大丈夫？えーっと……エドワード。」

この状態で初めて名前を……！！

もうどこか人気のない所にも連れ込みたいぐらいです。ウフフフ  
フ。。。。

「お、おい……。これって……。。」

「とつてもお似合いですよ〜。」

そーこーしてる内にケンジさんが店員さんと一緒に……。はうつ!  
!!

「ほ、本当に……。似合うのか……。? 絶対これ男が着るものじ  
やないだろお〜。」

「……………」

シエルさんも啞然としていますが……。フフッ

ケンジさんはもう……。」「はづらう〜〜〜!!!! お、お持ち  
帰りいいいい〜〜〜!!!!」「くぐらいです!!!!!!

さっきシエルさんに渡してたメイド服のパワーアップ版のような・

・はう。

メイド服だけでなく！さっきの猫耳【以下省略】

もつけているんですよ~~~~~!!!!!!

少し恥ずかしがってる所も ですよ!!!

これはもう本当に本当に本当に素晴らしいですよ!!!!!!  
!!!!!!

「もう・・・ 着替えていいか・・・？」

・・・あゝ・・・とてももつたいない気が・・・

「シャッターチャンス、いただきさあつ!!!!!!」

声がる方に振り返ると、ものすごいフラッシュが！

「い、いきなりなんだ!？」

「『男なのにメイド服を着こなす!!!!!!』これは明日の新聞に」ど  
んな新聞だよ!!!!!!」

・・・新聞社の人みたいですな。

シエルさんのツッコミが早すぎて説明が遅れてしまいました……。

「シエル！そいつを血祭りにあげとけ！！！」

「……………名前も知らない新聞記者、せめて痛みなく果てる。」

「えっ？……………うわああああああああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！」

シエルさん……そんな恐ろしい人だったとは……………。

そして名前も知らない脇役の新聞記者さん。

せめて安らかに旅立って下さい……………。

「……………完璧じゃね？」

と、血祭りが終わると同時にケンジさんの着替えが完了。

ちよっぴり……………残念です……………。

「・・・なんでカチューシャしてるの？」

シエルさんが一言、気づけなかった・・・。

今のケンジさんの格好は

さっきのマフィアスーツとは雰囲気が違うブラックスーツ。

少し洒落た感じの殺し屋のような・・・

カッコイイと渋いが混ざった服装ですね。

それに加えて頭にはカチューシャを着用しています。

(エドワードに初めて会ったときに着用していました。)

・・・気になるんですが・・・。

マジカルスーパーポケット(?)は一体どうなるんでしょうか？

結構興味があつたんですが・・・。

「エドワードは買わなくていいのか？」

「・・・えっ？私ですか？」

「エドワードって言ったじゃねえかYO。」

「あ、すみません・・・ポーっとしてました。」

「ああ、そうか……。よくあるよくあるってこととで服はど  
うすんだあ。」

いつものケンジさんなら『さっさとしやがれコノヤロウ!』とか  
言いそうなんです……。。

優しいとゆうか……。気が長くなったとゆうか……。

嬉しいことなのに……。ちょっと寂しいですね……。

「今のままでいいです。結構気に入ってますから。」

「うん?そうか?じゃあシエルと一緒に外で待っていてくれい!!  
」!

「最近語尾がテキトーになってきてますよね。」

「そんなこと気にしちゃいかんよ。はっはっはっ!!!!」

その後 ケンジさんが会計で値切っていましたが……

気にしないでおきましょう……。

く控え室での雑談く

ケ「よっしゃあ〜。 次回はおまけでもしようかな〜」

シ「全部おまけにしか見えないけど……。」

鉄「そこは黙ってようね。」

エ「おまけとゆつと……具体的にどんなのですか？」

ケ「シエルが悪い奴に連れていかれて〜」

鉄「お前が助けるのか？」

ケ「助けるのはエドワードだZE！ 悪い奴〓ケンジ大魔王だZE  
！……！」

シ「……なんで自分から悪役に？」

ケ「悪役の立場を利用してシエルで遊ぶ。」

エ「とつくに遊び道「黙ってなさい。「すみません……。」

ケ「エドワードも『俺』って言えるようにな。」

エ「なんでですか？」

鉄「主役（？）が『私』じゃカッコ悪いだろ。」

エ「おまけ・・・本当にやるんですか？」

鉄・ケ「もちろん」

エ・シ「・・・・・・・・・・」（冗談だと思った・・・・・・・・）。

20話目：服のセンスは必要か？（後書き）

ラ「今回はそんなわけで『おまけ』です。

読まなくても全然OKだZEE!!!

物語的には無くても問題ないので、テキトーに飛ばして下さい。

もし お暇でしたら、暇つぶし程度に……。

そんなわけで、 次の更新も1週間以内を目指します。はい。

こんなくだらない文章をお読みいただき、 本当にありがとうございます」  
ぜえましたでゴンス。

……ごめんなさい。 では……」

次のおまけですが、短編として更新しようと思います。

21話目：いろいろと・・・残念です・・・（前書き）

誕生日ネタはシエルさんしか考えてなかった！  
けど鉄くずのネタ帳によりギリギリ更新！！！！  
でも・・・いろいろと残念です・・・。  
この話の続きはおまけが終わりしだい追加します。

おまけの更新についてかなり迷ってます。

短編か本編かおまけの連載小説（3〜5話くらいの）か・・・。

後書きに連絡があります。

21話目：いろいろと・・・残念です・・・

【ジスパのどこか】　　くシエルさんの視点く

「ケンジさんの機嫌が悪いです。」

「・・・・・・・・いきなりなに？」

く異世界探検記！くく

（オープニングは今

回にて終了ですw）

「ケンジさんの機嫌が悪いです！！！」

「さっきも聞いたよ？」

「あ、そうでしたか・・・。」

ケンジの機嫌が悪い「エドワードがなにかした

しかありえないと思うんだけどなあ・・・うん・・・。

「ケンジになにかした？ エドワード？」

「うっ・・・心当たりは星の数ほどありますが・・・。」

「そう、じゃあ殺されてこい。」

「ええ！？ まだそうと決まったわけじゃ！！！！」

「原因はお前以外ないだろ？（殺気を込めた笑顔で）」

「・・・あゝ・・・そんな気がしてきました・・・。」

まったく・・・さっさと認めればいいものを・・・。

っと、それは置いて・・・。

ケンジの機嫌がどう悪いのか、見に行こう！！！！

【アクセスサリーショップ2009】

「ケンジく！」

「んっ？ああ・・・シエルか・・・。」

・・・見たところ機嫌が悪い様には見えないけど・・・。

「なあシエル。 アクセサリーってどんなのがいいと思うっ？」

「・・・アクセサリー？」

あの、ファッションセンス0%のケンジが！！！！

アクセサリーですとおおおおおおおお！！！！！！！！！！

「エドワードの誕生日を忘れてたネジ野郎の代わりに、プレゼントだよプレゼント。」

「・・・・・・誕生日？」

・・・3月20日＝エドワード

・・・4月17日＝ケンジ・・・ ケンジ！？！？！？！？

ケンジの誕生日って今日だ！！！！！！！！！！

(エドワードはどつでもいいんだな b yランタン)

「エドワードに似合いそうな物がさっぱりわからんが……これはどうだろうか？」

ケンジがなにか喋ってるが、それどころじゃない!!!

ケンジの誕生日を忘れていたとは……一生の不覚！ どうにかしないと……。

「ケ、ケンジ！ 用事思い出したから帰るね!!!」

「……シエル？ ……白状な奴だなあ」 ははっ。「

とにかくとにかく!!! なにか、なにかプレゼントを探さないと!!!!!!

（その後、彼女の姿を見たものはいない……。）  
「殺されるよ？ 作者君。」

〜ケンジの視点〜

「・・・十字架か・・・うん。これにしようじゃないかあ!!!」  
「ってことで、『罪を背負いし者』ってゆうカッコイイ感じのアクセサリーを購入。」

「だいぶ遅れたけど・・・大丈夫かねえ？」

「・・・まあいいさっ！パーティーの準備を始めようじゃないか  
！！！！！！」

「・・・一人だけどね。」

「鉄くずハウス」（鉄くずは不在w）

「・・・まだかな・・・。」

「なんでココでやるんだ？」

「お前どうせ暇だろ？仲間に入れてやるよ。」

「偉そうに・・・。でも手伝ってやるよ。」

「3時間後」

「遅すぎるだろ、お前時間とか伝えたのか？」

「……………手紙を……………」

「馬鹿だろ。」

〈12時間後〉

「もう……………寝ていつすか……………」

「……………寝れば？俺は起きてるから……………」

「すまん。明日は仕事があつてな……………ZZZZZZ」

「……………ホントに寝やがった……………」

〈18時間後〉

「……………寂しいな……………」

エドワードってそんなに悪い奴か？みんな嫌いなのか？

「みんな友達じゃないかあ……………ひつく……………うう……………」

(酔っ払ってやがる!!! 未成年なのに!!!)

「コーラって・・・アルコール何%だっけ・・・ひく・・・。」

(原因コーラかよ!!! なんて酔うんだよ!!!)

〈24時間後〉

「・・・ZZZ・・・ZZZZZ・・・ZZZZZZZZZZ・・・  
はっ!」

寝てしまった・・・。。。。。。まだ来てないのか。。。。。

「誕生日って・・・大切だね・・・。」

〈28時間後〉

「・・・俺がおもしろくないせいかな・・・。」

・・・誕生日はまた今度にしよ・・・。。。

〈完?〉

21話目：いろいろと・・・残念です・・・（後書き）

おまけの件ですが

結構 設定に悩んでいます。

ケンジの登場がなかなか決まらないZE・・・。

設定は結構 無理矢理になるかもしれない・・・。

そこはよろしくお願いします。はい。

おまけの更新日時はまだ不明です。

22話目：誕生日？まだ続きます（前書き）

おまけが全然できません。

しばらく先になりそうです・・・。

最近本当に寝てません。

本当に寝させて下さいよランタンさん・・・。

新キャラさんが出てきます。

あと途中のシチュエーションは見たことある人がいるかも！？

後書きにもなんか書いとります。

そして、陽子さん（神技さん）

ごめんなさい。はい。すみませんでした！・・・！

## 22話目：誕生日？まだ続きます

「ピーン ポーン パーン ポーン」

ケンジが失踪したため、誕生日が延期になっちゃいました。

(現在新たな会場を探しているようです。)

【賑やかな街 (ジスパ)】 (シエルの視点)

皆さんこんにちわ(こんばんわ) シエルです。

今日は自由行動なので！前回買いそびれた誕生日プレゼントを！  
もちろんケンジのね)

買いに行きたいと思いまーす！！！！

.....過ぎちゃったけどね.....。

「それじゃあさっそくー！！.....どー行こう.....。」

プレゼントってなにをあげればいいんだろう.....。

アクセサリー？ 靴？ 手作りケーキ??? どんなお店に行けばいいの？

「じ〜〜〜〜ん〜〜〜〜ん…………困ったなあ〜〜〜〜……………」

「……よし！とりあえず歩こう！……！」

歩いてたらきつと なにか閃くはず……！！

〜とりあえず歩き中〜 【ここから会話が

多くなります】

「私の頭〜閃け〜 私の頭〜閃け〜 私の頭〜閃け〜 私の頭〜以  
下文。」

「…………閃くかああああああああああああああああああ  
ああ…………！！！！！！」

「ああ〜〜〜〜………… なにかないか なにかないか……………」

なんにも思いつかないよお…………。

「ドンッ……！」

「・・・おい兄ちゃん、ちょい待てや。」

「なにかないかなあ〜・・・うん・・・。」

「おい！聞いてんのか！ー！！」

「ケーキ？・・・いや・・・やっぱり・・・。」

「・・・（ブチッ！）。」

「ガシッ！ズルズルズルズル・・・。」

【建物と建物の間にある狭い道のような所（路地裏）ってやつですか？（）】

「人にぶつかったら謝らんなあ？　な、兄ちゃん　それが常識やろ？」

「・・・さっきから兄ちゃん兄ちゃんって・・・私は女なんですけど・・・。」

「ああ？ そんなことはどーでもいいんじゃない！ 土下座で詫びんかい！……！」

どーでもいいのかよ……。

「ああもつっ！ うるさいなあ……。」

「うるさいとはなんじゃい！…… おんどれが頭下げればいいだけじゃろが！……！」

「しかも訳のわからない言葉遣いして……。」

「これは生まれつきじゃ！ いいからさっさと頭下げんかい！……！」

……まったく…… 無駄な時間を使わせやがってえ……。

私だって怒るときは怒るんだからな……。

（顔に傷のある男の視点）  
（新キャラを出すタイミングって難しいよね。）

「さっきの男は一体なんなんだ……。 変態としか言いようがない奴だった……。」

男なのに男を愛する。

決して悪いことではないと思うが……。 迷惑だ……。

……。 貴様、なにさっきからジロジロ見てる。

(あ、バレちゃった？ はっはっはっ！ すみまめーん！！！ b  
y鉄)

……。 刻んで野菜炒めにでも打ち込むぞ。

(タイムタイム！！ とりあえず話を聞いて下さいYO b y鉄)

……。 30文字以内で述べよ。

(女性シエルが男に絡まれてるので助けてあげてYO b y鉄)

……。 なぜ俺に頼む？ 貴様とはなんの関わりもない俺に。 (ツ  
ツロミは苦手らしいYO)

(皆さん忙しいのでね ここは新キャラに任せ「斬鉄剣……」フ  
イイイバアアアア b y鉄)

・・・嫌な予感がするが・・・ これもまた一興いっしょう・・・か・・・。

(新キャラ君、君は読者のことをもつと考えようZ E b ヲランラ  
ン(笑))

俺はなにかに縛られるのは嫌なんでね、斬鉄剣。

(ちよっ！待っ！！ フィィィィバァァァァ！！！！！！ b  
ヲランタン)

・・・では行こうか・・・。

↳建物と建物の間にある狭い道のような所 パート2  
↳シエルの視点

「なんか言ったらどうなんじゃ！ おい姉ちゃんよおー！！！」

・・・あのうるさい奴を黙らせる方法・・・。

15話目の終わり（舞台裏） 遊鬼君に貰った特別製ハリセン！！！！

あれでコイツの脳天を叩き割って・・・。 いや・・・。

このハリセンであの方の大きい頭をスパーンと切り伏せるでありますわ

こんな感じでいいよね。

「聞いてんのか！おい！黙っとつたら終わらんぞ！！！」

「それじゃあ私がああなたの人生に『終止符』を討つてさしあげますわ」

丁寧に言ったほうが読者様を不愉快にさせないしね。うん。

「んだとゴラアアアアアアアアア！！！！ 調子にのってんじやねえぞおおおお！！！！！！」

脇役<sup>バカ</sup>が腕を振り上げる。

その時、一人の男が私の目の前に現れた。

「・・・君が・・・ シエルか・・・？」

「えっ？ あ……そうですね……なにか？」

誰だろう……？ 会ったことある人かな？

………つて後ろ後ろ！！！！

「誰じゃあんどれはああああ……。」

「……人に名を聞くときは、自分から名乗るのがマナーじゃないのか……？」

「知るかなもん！ さつさと名乗れゆうとんじゃ！！！！」

「………。……俺の名は斬月<sup>ザンゲツ</sup> 異界人だ……。」

名乗るのかよ！ つてことでそろそろ殺りますか。うん。

読者さんを待たせちゃダメだし……。

「異界人の「地獄に落ちるおおおおお！！！！」ちよっ！！！！  
があああああああああああ！！！！！！！！！！」

「………。「パチパチパチパチ」。」

なんか拍手してるし……。

・・・ところであの人誰だよ!!!

「・・・・・・・・・・。(・・・俺の存在意義はなんなんだろうな・・・。

居ても居なくても一緒 そんな言葉が似合うな・・・俺・・・)」

(自分で言うなYO)

「えーっと・・・ 斬月さん・・・でしたっけ？」

「・・・ああ・・・ そうだ・・・。」

もっと早く喋れないのかな？ この人。

「あ・・・・・・・・うん・・・・・・・・。 ありがとうございました。」

「(・・・俺がなにかした?)。 いや・・・礼を言われるようなことはなにもしていない。」

「あははは・・・・・・・・。 そうですか・・・・・・・・。」

・・・・・・・・とても話づらいですね

さっさとここから離れたい気分ですわ ホッホッホッ

「あー、用事を思い出しましたー 帰らないとー」 (棒読み)

「……ちよつと待て……。」

立ち去ろうとする私を、斬月かれが引き止めてきた。

「え…… 为什么呢ようか？」

「……人を捜しているんだが…… こいつを見なかったか？」

一枚の写真を渡される。

……そこに写っていたのは…… ケンジだった。

「詐欺、恐喝、強盗、傷害、殺人、e t c…… とても危険な奴なんだが…… 知らないか？」

ケンジなら、『詐欺』、『恐喝』、『強盗』、『傷害』くらいならやると思っ。

でも、殺人は絶対にやらない。

いつもはふざけてるけど…… それは絶対に…… 無い……。

「……大丈夫か？ 顔色悪いぞ？」

「あ、いえ……なんでもありません……。」

そう言って写真を返す。

「……そうか……。……あ、間違えた。」

「……えっ？」

「こいつはメイド服の男だった。こっちだこっち。」

……間違えてんじゃないやねえよ……。

脳天吹っ飛ばすぞゴラア……。

……。……。脳天を吹き飛ばすでございますわ（殺）

……ってことで違う写真を渡される。

「現在は『ジョーカー』と名乗ってるらしいが……。……どうだ？」

「さっぱりわかりません。」

急に力が抜けた。

さっきのでかなり精神力を使った気がする……。

「……そうか。時間を取らせてすまなかったな。」

「気にしないで下さい。早く捕まるといいですね。」

本当は怒ってますよ。

でも……今は黙っとこう。うん。

……なんでケンジは助けに来てくれないんだろう……。

なにかあったのかなあ……？

それとも変態ヘトウテになにかされてるとか……？

……考えるのはよそう。気分が悪くなる。

「……なにか忘れてる気がするなあ……。……あっ……！」

プレゼントだ……。

すっかり忘れてた……。はっはっはっ。

・・・よし、ケーキだ。　ケーキにしよう。

手作りケーキに勝るモノは無いはずだ。うん。

・・・あの脇役と脇役（？）のせいでなんにも出来なかったね。

次回はケンジに会えるかなあ・・・。

～次回予告～

『死者とケンジと迷宮』  
ラビリンス

「ミノタウロスって食えるのか？」

「・・・わかりかねます。」

「よし、じゃあ食ってみよう。」

「・・・私は知りませんかよ？」



**22話目：誕生日？まだ続きます（後書き）**

読者の皆様、

最近（とはいえない期間）更新が遅れて遅れてすみません。

次回は、大体出来上がってるので

いつもより早く更新できるかな〜っと思えます。

キャラ紹介（大体最終）（前書き）

次の更新にはまだ時間が掛かりそうです。  
すみませんがもうしばらくお待ち下さい。

（鉄くずの休暇が5月12日なので、それまでに前編 12日後  
編を更新できるようにします。）

前編は土曜日か日曜日に更新することになると思います。（  
更新予告を見て、来てくださった方々 本当にごめんなさい。）

## キャラ紹介（大体最終）

キャラクター紹介。

大体の人は最終設定です。はい。

あと・・・シエルの下の名前を募集中です（笑）

シエル・                    のような（笑）

半分冗談です。はい。忘れて下さい。

春野<sup>ハルノ</sup> 健司<sup>ケンジ</sup>

性別：男                    年齢：18                    立場：主人公

身長：177                    体重：意外と軽いよ                    役割：ボケ、ツツコミ、  
創造神

髪：切っていないので長い。                    黒髪。                    癖毛有り。                    寝癖は直さな  
い主義。                    たまにカチューシャ着用。

服装：カッターシャツ。ブレザーを肩から掛ける。制服ズボン。

新しい服装：殺気が籠ってる黒いスーツ。                    （スナイパーが着てそ

うな感じ?)

聞くなよ。

断じて人間ではない。

右ポケットが四次元に繋がっている。

不死身だが、強いか弱いかわからない。

様々な能力を有する。

周りの人間を惹きつける能力有り。

怒ると無口になる。そして破壊神になる。そして散る。

年下年上関係なく『さん』『君』をつける。

馴染んできた所で呼び捨てになる。

鉄くず

性別：男 年齢：19(?) 立場：作者 兼 保護者

身長：想像で 体重：想像で 役割：ボケ、ツッコミ、被害者

髪：最近(4月下旬)切りました。黒髪。寝癖は直さない主義。

服装：大体は全身黒。それ以外は灰色等。

ケンジより人間じゃない。

現代に生きるゾンビ。

趣味は読書。と見せかけてバイト。

周りにおかしな人間を集める能力を有する。  
人脈が恐ろしい。  
不死身能力は無限に使える。

シエル (シエル・) (名前募集(笑))

性別：女 年齢：17らしい 立場：ヒロイン ってか女性キ  
ヤラが一人。

身長：162(?) 体重：(言ったら殺される)  
ツコミ 役割：ツ

髪：ロング。 黒髪。 それぐらい。

服装：お姫様が着てそうな白いドレス。

新しい服装：古臭いジーンズ。 白いシャツ(?)。 腰になんか  
巻いてる。

黒い手袋を着用。 (すごいボーイッシュらしい。)

9話に登場。 最初は無口だった。  
ツツコミの才能があるらしい。

もともとお姫様。 強制的に参加させられるが、本人は気づいてな  
い。

胸は無いに等しい。 それが男に見える理由なのかもしれない。  
ケンジを気に入ってる。 . . . つまり. . . .

あだ名をつけるのが好き。

エドワード (偽名)

性別：両方<sup>オトコ</sup> 年齢：20以上 立場：ケンジ、シエルの補助

身長：200 (シルクハット含め) 体重：言えません 役

割：ツッコミが多いかもしれない。

髪：シエルと同じロング。 赤髪(?) 青髪(?)

新しい髪：肩に掛かるくらい。

服装：きっちりしたスーツ。紫のシルクハット。

一言で表すと変態。

ケンジに一目惚れし、異界人監視の仕事をクビになる。

シエルのことも結構お気に入り。

遊鬼君<sup>ゆうきくん</sup>はケンジより・・・フフフフ・・・

副業はカフェの店員。 エプロンドレスを着てる。 がクビになる。

嘘をつくのが趣味。 (って鉄くずが言ってた。)

炎を操る能力が有るが、あまり好まない。

作者

もともと人間。

鉄くずの友達（女性）がこんなだった。  
普通はありえない怪しい服装で日々を過ごしている。

ランタン（ジャック・ランタン）

鉄くずの友人。

成り行きでこんなになった。

鉄くずと同居中（笑）

スポーツは大体なんでも出来る。

最近の趣味はプロレスらしい。

零下レイカ 斬月ザンゲツ

性別：男 年齢：25くらい 立場：隠れキャラ（笑）

身長：ケンジより高い。 体重：ケンジより重い。 役割：空気読  
めない奴。

髪：真っ白な髪。 ケンジより短い。

服装：着物（？） 江戸時代の侍みたいな服。 無地。

なんか来た人。 異界人。  
腰に刀を差している。（斬鉄剣）

顔面に傷がある。 切り傷？  
存在価値がない。 役に立たない。  
日本でゆう警察の仕事を、暇なときに手伝う。 結構優しい。  
趣味は星を数えること。 似合わない。

### ジョーカー

名前だけ登場。  
趣味は殺人。 暇なときは詐欺等で暇つぶし。  
いろんな所を放浪中。

### 24話目に登場予定の人

#### アリス (死者)

不思議の国のアリス。 みたいな人(幽霊さん)  
ケンジと一緒に迷宮を脱出しようど・・・がんばって下さい。

#### ミノちゃん (ミノタウロス)

ラビリンス  
迷宮に閉じ込められている獣人。

同族意外には容赦なく襲い掛かる・・・予定。

半分牛だから・・・。おいしいのかなあ・・・。

### ケンジの親父

電話でのみ出演予定。

ケンジの親父にしてはいい人。

終了

俺がんばった。俺がんばった。俺がんばった。  
とりあえず自分を褒めてみました。

こんな感じでいいですかねえ・・・。はい・・・。  
次の更新はGW明けの5月7日になると思います。  
すみませんが もうしばらくお待ち下さい。

鉄くず

キャラ紹介（大体最終）（後書き）

今回は会話もなしでした。はい。  
すみません。

23話目：死者とケンジとラピルス！？ ～前編～（前書き）

散々な結果です。はい。

もう完全な『黒歴史』です。（始めからですが）

この話も恐らく（前）（中）（後）に分かれるかと・・・。  
そして本当にごめんなさい。

23話目：死者とケンジとラピルス！？ ～前編～

「始めましてえ！ ジョニーデップです～・・・。 違うかあ！！！！  
ピッ！」

「もしもし。」

「おお！ ケンジか！！！！ 最近お前が帰ってこないから父さんは  
心配で心配「ピッ」「

「・・・・・・・・・・。 異世界探検記！？ 始まるよ～～。」

【世界のどこかにある何所か】 ～ケンジの視点～

「・・・・・・・・・・ってことではいじょうだよ。」

上も下も横もコンクリートの壁に閉ざされた道。

これを俺はコンクリートロードと呼ぶことにする。

だから今居るこの場所はコンクリートロードだ。うん。納得。

「……………納得出来るかあああああああああ……………!!!!!!」

読者諸君!!!!!!

今! 君達は恐らく『逆切れするなww』とか思っただろお!!

そう…………、それが正しいツツコミだあああああああ!!!!

「そして俺はツツコミがいねえーとなにもできねえじゃねえかコンチクショーーーー!!!」

…………早く進め?

ごめんなさい。はい。進みます。はい。だから帰らないで下さい。すみません。

「あの…………。」

「はいなんでしょうが。」

……ありやいや？

今の誰だよコノヤロウめえいコンチクシヨー。

声は後ろから聞こえたんだが……。

「知らない人と喋っちゃいけないので喋りません。」

「ええ！？　そ、そんなこと言わないで下さいよぉ……。」

俺は振り返らないぞ。

なんかさあ、振り返ったら魂抜かれるとか聞かない？　怪談話で。

俺ってそーゆーの信じちゃう性質ぶたなんだよねえ。うん。

……ごめん。全然関係ないね。

「ごめんちゃ。　少しからかっただ……け……。」

「……？　どうかしました？」

いやいやいやいやいやいや。

浮いてる・青白く光ってる・髪が長い・って幽霊の3拍子が揃って

るじゃ〜あ〜りませんかあ〜。

.....

俺はなににも見てない見てない見てない見てない見てない.....

幽霊なんかいない。 いるわけがない。 いるわけない。 いたら  
ごめんなさい。 ごめんなさい.....

真面目にやれ？ ごめんちゃい。

「すまんすまん。 気にしないでくれ。」

「き、気にしないでと言われたら余計気になっちゃいます.....」

.....まあ、 そりゃそうだよな。

約6行に亘る独り言を、 「気にするな」「はいそうですか」「で  
終わらせることは俺には不可能だ。

女性に暴力を振るう気はないが..... 少し強引に納得してもら  
おう。 うん。

これ以上長引かせるとなにも出来ずに 『完』 とかになるからね。

「気にしたら負けだ。 わかったな？ わかってないならドドドド  
ーンだぞ？」

「な、なんですか・・・？ それは・・・？」

「よし、一発目は顔面に だな。」 「ごめんなさいごめんなさい  
ごめんなさい！！！！！！」

説得完了。

さっさと話を進めなければならぬと言いつのに・・・。 この女は・・・。

・・・「お前がもたもたしてるからだろ(怒)」「・・・だと？」

そのとおりだ本当にすんません。

「おふざけは終わりだ嬢ちゃん。 とりあえず自己紹介でもしよう  
じゃねえかYO」

「・・・私よりあなたの方がふざけていると思いますが・・・。」

・・・反論はしない。俺もそうだと思うから。

俺よりふざけた奴はこの世にいないと思うから反論はしないんだぜ。

もしいたらコブラツイストをあひゃひゃひゃひゃ。

・・・・・・・・・・・・・・・・忘れる。

「俺は春野ケンジ。異界人<sup>いかいびと</sup>だったり異界人<sup>いかいじん</sup>だったりする宇宙人<sup>エイリアン</sup>だ。」

「・・・・・・・・もうツッコミが追いつかないです・・・・・・・・。」

そこらへんは融通が利かないんだな。

普通そこはスルーして、「スルーかい!!!」みたいな雰囲気  
を・・・・・・・・。

長くなるからカットしていい？

「スルーのタイミングが如何に大事かを永延と説明して  
います。」

どんな説明があったか？

それは5年後にみっちりと聞かせてやる。

「讓ちゃんのお名前はなんてーの？」

「……………ZZZZZ」

ありゃりゃりゃりゃ！！！！？？？

寝ちゃってるのかい！？

なんで寝ちゃってんだいこの小娘があああああああ！！！！！！

「朝ですよー 朝になっちゃたんだよー 起きろおおおおお  
おお！！！！！！！！！！」

「起きてます……………起きてます……………」

「今にも寝そうなんですけど。 頭カクンカクンカクンされて言われ

ても説得力ないんですけど。」

「気のせいですよ……アリスです……。」

「なにその自己紹介!? 新しいなあ……って馬鹿!!!」

なんで俺がツッコミをしないとイケないんですかコノネジ野郎!!!

あの子は一体なに? なんなの? 馬鹿なの? 天然なの? 狙ってるの?

「そろそろ進みませんか?」

「ああ、そうだな。……ってもう訳がわからない。」

「人生そんなモンです。」

「俺はお前がわからない……。お前はボケなのかツッコミなのかもわからない……。」

今回はもう終わらない?

俺はもう疲れたよ……。うん。

「……………」

「……………そして牛？」

「牛じゃないです。『ミノタウロス』 獣人です。」

もうどうでもいいわ。

終わりだ終わり。 世界の終わり。

牛になんて興味は湧かん。

……………牛？

牛ってなに牛なんだ？

もしかして黒毛和牛？

そんなわけないけどさ、 信じねば叶ひゃ。

うん、 試そう。

俺の原動力は『興味』なんだ。

興味のない俺は廃人同然！！！！



「??」

貴様は勘違いしていたのだよ!!!

貴様は自分が最強の捕食者だと勘違いしていた!!!

それが貴様の敗因だああああああああああ!!!!!!!!!

「モオオオオオオオオオオ!!!??」

「マテエエエエ!!! 俺の晩飯いいいいいいいい!!!」

「.....彼は一体何者なんでしょう? さっぱりわかりませ  
ん。」

天の声「お前の方がよくわからん。」

「それは褒め言葉ですよ。 ありがたく受け取っておきます。」

天の声「お前はボケなの? ツツコミなの? そこをはっきりして  
くれないと困るよ。」

「それを決めるのは読者様です。」



もう世界の終わりです。

アリスさんのキャラ説明等を入れるタイミングも思いつかなくなっ  
てもう散々です。

本当に俺はなにがしたいんだろう・・・。

ケンジが焦ってるのは暗所恐怖症だからです。

23話目：死者とケンジとラピリンス!? 〔前編〕(後書き)

Q1、シエルさんは遊鬼君のこと『も』好きなんですか？

鉄「ケンジと遊鬼君のことであってますよね？」(なぜ？マーク  
byラ)

A、「わ、私は・・・あの・・・その・・・ケ・・・なんでもな  
い!!!」

Q2、鉄くずさんとランタンさんは絵が書けますか？

鉄「絵が下手か上手かってことですよね？」(そうじゃね?)

A、鉄「棒人間しか書けません。」

ラ「棒人間すら書けません。」

以上です。

## 24話目：侍が迷宮入り（前書き）

続きの更新ですが、現在いろいろ迷ってます・・・はい。  
出来上がってはいるんですが、ちょっと変な方向に行っちゃっ  
てましてですね。はい。  
すみませんが、もうしばらくお待ち下さい。

## 24話目：侍が迷宮入り

『廃墟（砂漠都市）』 〱 斬月〱 （夜）

砂漠の真ん中に微かに残る 人が住んでいた面影。

人はそれを 『旧 砂漠都市』 と呼んだ。 （現在の砂漠都市はレスト）

その砂漠都市には 建物がそこに建っていた「跡」があるだけだった。

その「跡」も いずれは砂に吞まれ なにも残らなくなるだろう。

・・・そんな、 忘れられた地に斬月は立っていた。

「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

彼は立ち尽くし 寂しげな顔をして空を見上げていた。

空の向こう側に「なにか」を忘れてきたかのように・・・。

「なにを考えてるんですか？ こんな所で。」

残月が振り返ると、スーツにシルクハットの見るからに怪しい男が立っていた。

「貴様は…… 先日の変態男か……」

「へ、変態じゃありません。同性愛者だけです。」

「……どうだかな……」

斬月は 呆れる様な仕草をした後、腰に差してある刀を抜いた。

「……貴様の目的はなんだ。」

「……貴方とお話がしたかった…… ではいけませんか？」

「もう一度訊く。目的はなんだ。」

「貴方とお話がしたかった。それだけです。」

「……」

斬月は刀をしまつと。男に名前を訊ねた。

「私の名前ですか？ 『今は』 エドワードと名乗っています。」

「……『今は』……だと？」

「そこは深く考えないで下さい。昔は昔 今は今です。」

エドワードと名乗る男は そう言って妖しく笑う。

興味本意で詮索するな。 そうゆう意思を込めての笑いなのだろう。

「次は貴方の番ですよ。 斬月さん。」

「……今、貴様が言っただろう。 なにが『貴方の番』だ。」

斬月はそう言ってエドワードを睨みつける。

「……そう邪見しないで下さい。ちょっとした悪ふざけです。」  
エドワードは宥める様に言うが、斬月は警戒を解かなかった。

「……これ以上は時間の無駄だ。俺の前から消えろ。」

「嫌だと言ったら…… どうしますか？」

「俺は殺しを好まない。無駄に刀を抜かせるな。」

斬月は刀に手を添え エドワードを睨む。

「……わかりました。気が向いたらまた逢いましょう。」

「気が向くことなど2度とない。」

エドワードは踵を返し その場を立ち去った。

「……帽子屋……。 貴様は俺にないを求めようとした……。」

斬月はエドワードが消えていった方向を見つめ そう呟く……。  
エドワードは斬月にないを伝えたかったのだろうか。

……。 それを知るのもっと先の話になるだろう……。 多分・

その後も 斬月は廃墟に残っていた。

砂漠に吹く風が 斬月の髪を靡かせる……。

「風が強くなったな……。これ以上は危険か。」

斬月はそう言うと ジスパに向かって歩きだす

……はずだった。

「……」は……。」

斬月が瞬きをする ほんの一瞬の出来事だった。

さっきまでいた砂漠ではない 薄暗い迷宮に斬月は立っていた。

「……立ち去るのが遅すぎた。……とゆう訳か……。」

〜その頃 ケンジ達は〜

「牛ごらあああああああああ!!!」 待てええええええええええええええ!!!」

「モオオオオオオオオオオオオオオ!!!」

「いつまでリアル鬼ごっこをやるんですか・・・。」

「牛野郎が逃げ回るからだあああああ!!!」

「モオオオオオオオオオオオオオオ!!!」

「・・・早く捕まえないと中編始まりますよ。」

「猟銃使うぞ牛野郎ゴラアアアアアアア!!!」

「ウモオオオオオオオオオオオオ!!!」

「最初から使って下さい。」

その頃　エドワードは

「砂漠って広いですね。迷っちゃいました。」

「がんばれ。俺も一緒だから。」

「・・・あなたは誰ですか？」

　　その頃　鉄くずは

「いらっしゃいませ。ありがとうございます。」

「レジお願いします。」

「はいはいいただきます・・・。」  
　　（眠いなあ）

T  
H  
E  
•  
E  
N  
D

## 24話目：侍が迷宮入り（後書き）

斬月の役割はキーマンですが、あまり役に立ちません。はい。エドワードのモデルは（不思議 国 アリス）の帽子屋です。あと、映画の俳優がエドワードさんとゆう偶然にビックリです。

おまけ（短編）のタイトルが決まりました。

『アローン・イン・ザ・ダーク』暗闇に（で）一人ぼっち。 です。  
タイトルの文字数によって多少変化すると思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9367f/>

---

異世界探検記！？

2010年10月11日18時19分発行